○近畿大学学則

昭和41年12月１日
令和８年４月１日改正

別記（１）

近畿大学教育方針
（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）

本学は、未来志向の「実学教育と人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育の目的として掲げてきました。この「建学の精神」と「教育の目的」は、知識基盤社会へ転換しようとする21世紀の日本において、いっそう必要とされる理念であると自負します。

本学が、総合大学として各学部の特色を生かしながら、共に手を携えて目指そうとしているのは、「実学教育」と「人格の陶冶」の融合です。真の「実学」とは、必ずしも直接的な有用性を志向するだけではなく、その事柄の意味を学び取ることを含みます。現実に立脚しつつも、歴史的展望をもち、地に足をつけて、しなやかな批判精神やチャレンジ精神を発揮できる、創造性豊かな人格の陶冶を志向するものです。「自主独往の気概に満ち」、生涯にわたって自己の向上に励み、社会を支える高い志をもつことが「人に愛され、信頼され、尊敬される」ことにつながります。このような学生を社会に送り出すことが、これからの時代に、本学が目指す社会的使命であります。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学は、「建学の精神」と「教育の目的」に基づいて、「深い教養と高い志をもち、社会を支える気概をもった学生を育成し、社会に送り出すことを最終教育目標」としています。厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。卒業までに身に付けるべき資質を以下に示します。

１　大学での種々の学びを通じて、「人に愛され、信頼され、尊敬される」人格へと自らを成長させ続ける自己教育力を培っていること。
２　問いながら学ぶ「学問」習慣を身に付け、専門領域における知識・技能を修得し、それらに裏打ちされた探究心と社会貢献への使命感に目覚めていること。
３　専門領域における課題の意味を、広い歴史観や深い人間観の中で位置づけようとする教養を、身に付けていること。
４　異質な価値や文化を理解し、自国の伝統や文化の意味を再発見する国際感覚を、身に付けていること。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

本学は、「建学の精神」と「教育の目的」を実現するために、「全学共通科目」と「専門教育科目」を２本柱として、各学部学科の特色を生かしたカリキュラムを提供します。また、ボランティア、インターンシップ、各種資格取得講座などのプログラムを展開し、全教職員が、学生の学問的、人間的成長とキャリア形成を支援します。さらに、生涯学習社会実現のために、学生と社会人と教員が共に学び合う機会を提供します。これらにより、学生はディプロマ・ポリシーにある資質および能力を以下のように身に付けます。

１　全学共通科目および学部基礎科目では、文系・理系の枠を超え、入学者の基礎学力の確認と向上を図るプログラムを提供し、各学部における専門分野の学問へ導くとともに、学問する習慣を身に付けます。
２　専門教育に携わっている教員が教養教育（全学共通科目）に参加して、実学（専門教育）と教養の連動ないし融合を視野に入れた授業を提供します。これにより、教養と専門教育の意味を幅広い視野から理解し、学ぶ意義と意欲を体得します。
３　「専門教育科目」においては、社会のニーズに対応できる教養に裏打ちされた専門性を高める工夫を進め、社会に貢献できる知識と技能、探求心を身に付けます。また、必要に応じて他学部との単位互換制度等を活用し、複眼的な専門性を育成します。
４　さまざまな国際分野で活躍できる人材を養成するため、グローバル教育の充実を図り、国際社会が共有する目標と文化的多様性の価値を理解し、国際感覚を身に付けます。さらに、海外の教育機関等との提携による国際スタンダード教育への参加を進めます。
５　産学連携を推進し、生きた実学教育の充実を図ります。社会人の学びの場（リカレント教育）

を充実し、生涯学習社会の実現に貢献します。学生の資格取得のために、学部横断的な取り組みを展開します。ボランティア、インターンシップ、留学制度等を充実し、学生が地域社会、国際社会において意味のある学びを体験できるよう努めます。これにより、社会貢献の意義と使命感を体得し、常に自らを高める自己教育力を身に付けます。

6　これらの達成度および学修の成果は、別に定める「評価の方針」によって評価を行います。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学の「建学の精神」と「教育の目的」に共感する入学者を国内外から広く受入れます。

1　本学が求める基礎学力と倫理観を備える人。

2　謙虚に学ぶ姿勢を有するとともに、自ら課題を発見し解決していく意欲にあふれる人。

3　「人に愛され、信頼され、尊敬される」前に、まず人を愛し、信頼し、尊敬することのできる人。

4　社会のニーズに対応できる実学や教養及び国際性を身につけたい人。

5　自分の得意分野を伸ばし、社会に貢献したいと考える人。

別記（2）

近畿大学　学部・学科の教育・研究の目的について

【近畿大学学園の「建学の精神」と「教育の目的」】

近畿大学学園の建学の精神は、「実学教育と人格の陶冶」です。この建学の精神を具体的に実践するために「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育の目的に掲げています。

この建学の精神と教育の目的に基づいて、「広い教養に裏打ちされた人格とチャレンジ精神をもって未来を志向しつつ、実践的学問すなわち実学の発展に貢献することのできる人材を育成」して、社会に送り出すことに全力で取り組んでいます。

本学の各学部・大学院及び各学校は、それぞれの人材育成目標に沿って、特色あるカリキュラムを用意し、充実した教授陣が、質の高い教育を提供しています。

学生の皆さんには、上記の建学の精神と教育の目的を理解していただき、本学園で、本当に優れた友人・先輩・教員や夢中になれる学問に出会い、美しいものに打たれ、豊かな教養と専門的知識を身につけ、各人固有の才能を見出し、自分に最もふさわしい将来設計をされることを願っています。

【法学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

法学部は、本学の建学の精神や教育の目的を念頭に、法的思考力いわゆるリーガル・マインドの育成と涵養をその理念・目的としています。さらに、激動する社会の中で広い視野と豊かな（法的）思考により、積極的かつ柔軟に行動する能力を修得させることと、そのような能力を備えた21世紀を担う人材を育成することを教育目標としています。また、社会のニーズに添った人材を輩出することこそが実学教育の理念に基づく教育の到達目標であると考えており、そのため社会の変化に添った形で法学部の改革を続けてきました。

平成20年度からの改革として、法科大学院設置以後の法学部のあり方を検証し、新しいカリキュラムを導入しました。その特徴は、従来どおりスペシャリストを育成する一方で、どんなことにも対応できる豊かで柔軟な教養をもったジェネラリストを育成することをベースにしたカリキュラムを組んだことです。具体的には、就職・進路を意識した履修モデルをパッケージ化して設定し、出口を意識した教育を行います。その他、英語教育を充実させ、グローバリゼーションに対応できる人材の育成にも力を注いでいるところです。

【法律学科の学修・教育目標】

法律学科の学修・教育目標は、上記のとおり法学部の理念に沿って、法学の基礎知識や思考方法を十分に習得した学士（法学）を養成することです。従来の法学部教育は、法曹養成を目標とする一方で、法的素養をもったジェネラリストの養成をも目標とするものでしたが、この二つの目標を同時に追求したために、大多数の学生にとっては高度で専門的すぎる内容となっていました。しかし、法科大学院の設置に伴い法学部教育が法曹養成の役割から解放された今日においては、学部卒業後に法科大学院へ進学し法曹を目指す学生のニーズにも応えながら、各学生の多様な関心と興味に即応して、社会の広い分野で活用できる法学の基礎知識や思考方法を身につけてもらうことが学修・教育目標となります。

【法律学科カリキュラム編成上の特色】

法律学科では、上記の学修・教育目標に到達するために、従来の法学部にはない、ユニークなカリ

キュラム編成を平成20年度から導入しています。
第１に、法学の主要科目（憲法、民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、商法、行政法）については、これまでの教育内容を一新し、従来は同一科目の中で行われていた教育内容を基礎と応用に分離しています。その上で、基礎的な内容は「基幹科目」として１年次から２年次に配置し、学生全員が法学の基礎知識や思考方法を理解して社会へ出られることを目指します。
第２に、法学の基礎知識や思考方法を１年次から十分に習得しながら、２年次から、４つの専攻プログラムのいずれかを選択して、これらの中でパッケージ化された「展開科目」を履修することで、学部卒業後の進路を考え、そこへ誘われることを目指しています。法律学科では、「犯罪・非行と法」（公務員、検察事務官、裁判所事務官、警察官を目指す学生向け）、「経済生活と法」（商社、メーカー、銀行、司法書士、企業法務を目指す学生向け）、「会計・税務と法」（金融、税理士、公認会計士、企業の会計業務を目指す学生向け）「まちづくりと法」（地方自治体、建設・不動産関連企業を目指す学生向け）という４つの専攻プログラムと「法曹コース」（法曹を目指す学生向け）、「行政コース」（公務員行政職を目指す学生向け）、「国際コース」（国際社会での活動を目指す学生向け）の３つのコースを設けることにより、低学年から将来の進路を考える機会が与えられ、専攻プログラム中の「展開科目」の履修を通じて、学生が自らの目指す進路へ誘います。
第３に、法学の基礎を習得した学生で、さらに深い法学の学修、研究を希望する学生のために、法学の主要科目（憲法、民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、商法、行政法など）については、「発展科目」を配置しています。
第４に、少人数教育が挙げられます。１年次前期に近大ゼミ、１年次後期にキャリアデザイン１、２年次前後期に一般演習、３年次から４年次にかけて専門演習を配置し、４年間を通して、演習授業を通して、各学生が教員と身近に接することのできる環境で、自ら学ぶ意欲を喚起し、自ら学ぶための知識と知恵とを習得することができる体制を整えています。
【その他の特色】
専攻プログラムに関連する展開科目はいずれも講義科目ですが、これらをより深く研究したい、あるいは様々な紛争や社会問題などへの応用を考え解決を図りたいという学生のために、知的財産法や英米法、国際私法、法制史など幅広い分野にわたって、専門演習を置いて、学生が主体的で自律的に学ぶ場を用意しています。
【経済学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】
経済学はその生誕以来、理論分析を軸としながら、政策課題やグローバル化の要請に応える社会科学の中心的学問として発展してきました。本学部は経済学科、総合経済政策学科、国際経済学科の３学科体制をとり、時代の要請に対応しています。経済学科では複雑多岐な経済問題の解明とその対応策の専門的な研究を理論・実証の両面から探求し、さらに多面的な政策課題や国際化の問題に特化して対応するために総合経済政策学科と国際経済学科が設けられています。これらの３学科のいずれにも一貫して流れる教育目標は、高い専門性と時代の要請に応える問題発見とその解決能力の修得にあります。
そのために本学部では特に１～２年次で英語をはじめとする外国語教育とＩＴ教育が徹底的になされ、社会が必要とする実践的な技術を高めます。その上に経済学の専門性と総合性を両立させるように志向された特色のあるカリキュラムが実施され、将来を見据えた生きた経済学を学べます。
本学部の専門科目は、高度な研究水準にある教員スタッフを迎え、各学年に魅力的に配置されています。特に１～２年で統計学Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ、計量経済学Ⅰ・Ⅱなどが学部共通科目の専門基礎科目として開講さ　れ、経済学的な分析手法に慣れ、２～４年次で学生各自が分野を選択し、その分野に属する科目を中心に経済学をより系統的・専門的に学んでいきます。入学して４年後には情報処理の技術（ＩＴ）に精通し、英語も話せ、かつ経済学の専門知識と分析能力に長じた学士（経済学・経済政策学・国際経済学）が誕生します。この学士こそ本学の建学の精神である「実学教育と人格の陶冶」の具体的な姿であり、必ず実社会で役に立つ人材になるはずです。
【経済学科の学修・教育目標】
激しく推移する昨今の経済状況に対して、本学科に用意された標準的経済学の諸科目を学ぶことで現状を正確に把握して、広い視野で将来を明確に見通せる分析能力を養い、公共部門やビジネスの第一線で活躍できる経済人を育成します。
経済学部のどの学科でも共通しますが、経済学をより系統的・専門的に学ぶために分野制がとられ

ています。本学科では経済学の理解を深めるために、まず学部共通科目を１年次で履修して、２年次後期からは自分の目指す進路に合わせて「経済学コース」か「経済心理学コース」のいずれかのコースを選択し、段階的に専門性を高められるように配慮されています。「経済学コース」では、各学生の学術的関心に応じて「理論・計量分野」、「財政・金融分野」、「産業・情報分野」、「歴史・社会分野」のいずれかを選択します。また「経済心理学コース」では、行動経済学をはじめ体系的に経済心理学を学ぶことができます。

【経済学科のカリキュラム編成上の特色】

本学科経済学コースの学生はミクロ経済学Ⅱ、マクロ経済学Ⅱ、経済史Ⅰ・Ⅱ、経済政策論Ⅰ、財政学Ⅰ・Ⅱ、金融論Ⅰ・Ⅱなどの学科共通科目の修得と並行して、選択した分野に従って科目を履修します。現実の経済動向を理論と計量の両面から分析する「理論・計量分野」は（削除）経済数学Ⅰ・Ⅱ、経済政策論Ⅱなどの科目でカリキュラムが編成されています。財政制度や金融制度の仕組みと資本主義経済の関わりに取り組む「財政・金融分野」では、公共経済学、貨幣論、金融政策論などの科目が学べます。日本の産業が抱える諸問題に接近し、その解決策を考え、また情報社会の動向や問題点に注視する「産業・情報分野」では現代産業論、情報システム論Ⅰ・Ⅱ、労働経済学Ⅰ・Ⅱ、産業組織論Ⅰ・Ⅱなどの科目が選択できます。経済社会の歴史的展開を学び、それをもとにして現代社会がもつ諸問題を追究する「歴史・社会分野」では日本経済史Ⅰ・Ⅱ、西洋経済史Ⅰ・Ⅱ、アジア経済史Ⅰ・Ⅱ、西洋経済思想史Ⅰ・Ⅱ、日本経済思想史などの科目が提供されています。他方、選択した分野以外の他分野の科目も卒業に必要な単位のなかに組み込まれていますから、より総合的に経済学を把握できるようなカリキュラム編成になっています。

本学科経済心理学コースの学生は、コース固有科目である社会心理学などを通じて心理学への知見を踏まえながら、経済心理学を体系的に学ぶために行動経済学Ⅰ・Ⅱ、実験経済学Ⅰ・Ⅱなどの科目が配置されています。

【その他の特色】

本学科の教育方針は標準的経済学の学修を通じて、複雑に多岐に展開される経済社会の実態に容易に対応できる能力を育成することが常に心掛けられています。また経済心理学コースでは、標準的経済学を踏まえながら、心理学的分析に基づくより多様な経済行動を分析します。

【総合経済政策学科の学修・教育目標】

総合経済政策学科では、「公共政策分野」と「企業戦略分野」に分かれ、現代社会が抱える環境、福祉、過疎・過密などの公共的な経済問題や、資金調達、生産、投資などの民間企業の意思決定の問題を、現実に対応して鋭く分析し、社会や組織に役立つ政策提言を行う能力を養います。こうした公共部門や民間部門が抱く課題を見出し、具体的に解決策を考える場合には、経済学の理論的枠組みや実証分析などの研究蓄積をしなければなりません。１～２年次で基礎的な経済学の科目を修得したあとに、総合経済政策にまつわる幅広い応用問題を考えるために、多様な専門分野の講義が現実に即して展開されます。このような学問的興味を満たす専門科目の受講をとおして現実の公共的政策や民間部門の施策に提言するだけではなく、それらの有効性を評価しその問題点をあぶり出し、必要な対応策を新たに思考する訓練を行うのも本学科の大きな教育目標です。特に、種々の現場を体験する本学科固有のフィールドワークの科目は教室で習得した総合経済政策の知識をもとに、現実的な問題を分析し、その評価や対応策を思索するとても良い機会となっています。

【総合経済政策学科のカリキュラム編成上の特色】

２年次から経済制度に関する予備知識を得るために、財政学Ⅰ、金融論Ⅰ、公共経済学、産業組織論Ⅰ、社会保障論Ⅰ、簿記論Ⅲ・Ⅳなどの総合経済政策の基礎になる分野を学科共通科目として学修します。本学科では２分野制をとり、公共政策について関心のある学生は、地方財政学Ⅰ・Ⅱ、地域経済学Ⅰ・Ⅱ、環境政策論などの政策に関連した科目を学ぶことが可能です。他方、企業やＮＰＯの意思決定に興味を示す学生は、組織と情報の経済学、中小企業論Ⅰ・Ⅱ、ＩＴ関連科目などを学ぶことができます。さらに経済学の範囲を超えて、法律や会計関連の科目も用意されています。

【その他の特色】

本学科の学修・教育目標を達成するために、多くの科目で経済学部の他学科に比較して、より少人数で講義が行われていることが大きな特色です。少人数の講義は教員と学生の距離が自然と近くなり、両者間のコミュニケーションが円滑になりますので、良好な教育環境が作り出されます。

【国際経済学科の学修・教育目標】

国際経済学科は経済のグローバル化が著しく進んでいくなか、国際経済や海外事情に精通し、国際的に活躍できる人材の育成を目指しています。本学科では「国際産業・金融分野」と「国際地域経済」の２分野制をとり、前者はヒト、モノ、カネが国境を越えて移動、又は取引されている現実について理論と実践の面から学び、後者は日本とのかかわりの深い地域の経済実態や日系企業の進出状況、地域統合の状況などを学修します。１～２年次にしっかりと修得した英語及び情報処理能力を十分に生かして、国際経済、貿易、国際投資、国際金融の理論や制度、データに関する知識を身につけます。また、日本語以外の言語によるコミュニケーション能力は国際化の時代に不可欠であり、語学能力の高い、アジアや欧米の地域事情にも通じた意欲的な人材の輩出を目標にしています。

【国際経済学科のカリキュラム編成上の特色】

１年次でミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ、基礎国際経済学を学修し、それらを基礎にして２～４年次ではより高度の理論系あるいは政策系科目や応用系経済学を学びます。学科共通科目として、２年次に国際経済学Ⅰ､開発経済学Ⅰなどが提供され､履修すべき科目は多様でより専門的になります。分野科目として「国際産業・金融分野」では国際投資論Ⅰ・Ⅱ、国際金融論Ⅱ、開発経済学Ⅱなどの科目が、「国際地域経済分野」では国際協力論、アジア経済史Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパ経済論Ⅱなどの科目が提供されます。分野科目では、２つの分野にまたがって開講されている科目も多くあり、弾力的に受講できます。さらに、英語や中国語の科目を専門科目として提供し、学生各自の水準に合わせて外国語が習得できるようになっています。

【その他の特色】

本学科ではホームステイでの海外留学プログラムを実施しています。選抜された学生は海外の大学で語学研修を受講するほか、現地でのインターンシップやボランティア等の学外での社会活動に参加します。

【経営学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

経営学部は、企業や非営利組織体の運営と相互交渉が行われるビジネスの場における「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」を総合的に扱う複合学部として、所属する学科・コースを超えて関心を寄せる授業科目を履修することを認めるとともに、他方、授業科目を基礎科目、情報科目、基幹科目、関連科目に細分することで、専門知識の習得に必要な科目を段階的かつ発展的に履修するという教育体制を採っています。また、教授内容に関しては、単なる座学に止まず、「学問・実際一如」という実学教育の理念を実践するために、企業等の現場で実績を挙げた方々を専任教員や非常勤講師等として招き、実践的な視座からの講義を行っています。また、企業人による「ビジネス最前線」と題する講演会を随時開催し、さらに、企業活動を自ら体験するためのインターンシップ及びキャリア実践プログラムを設けて、理論と実践の融合を図っています。さらに、ビジネス・エシックスに関連する授業科目を設置して、高い倫理観をもった人材の育成に努め、また、昼夜開講制を採ることで、月～金曜日の１時限から７時限までの授業を自由に履修できるようにして、多くの学修機会を提供するように配慮しています。

【経営学科の学修・教育目標】

経営学科では、企業や非営利組織体の組織運営に関わる学科として、企業や非営利組織体の組織運営に関連して生じる種々の課題を合理的に解決して、望ましい成果を効率的に得るための実践的知識を有し、他方で、それらの知識が依拠する理論的基盤に存する原理・原則を体系的に整序して、理解することを目指す「学問・実際一如」を体現した人材の育成を目標としています。

【経営学科のカリキュラム編成上の特色】

本学科に「企業経営コース」、「ＩＴビジネスコース」、「スポーツマネジメントコース」の３コースを設置し、各コースに共通する授業科目を基礎科目、情報科目、関連科目に区分し、段階的かつ総合的な履修を図ると共に、それぞれのコース毎に各コースの特色に応じた授業科目を基幹科目として配置しています。

【その他の特色】

企業経営コースでは、経営戦略の立案や経営管理に係る知識を現実的なものとするために事例研究の手法を取り入れています。ＩＴビジネスコースでは、バーチャル企業を設立して、これを経営する手法をマスターするなどの情報処理の高度なスキルを修得します。ＢＹＯＤにより個人が慣れた端末を使うとともに、高度なソフトウェアを使用する講義ではＴＳＡが学修をサポートします。スポーツマネジメントコースでは、スポーツビジネスのリーダーやアマチュアスポーツの指導者を育成する指

導が行われています。
【商学科の学修・教育目標】
商学科では、企業や非営利組織体の相互間の、また、消費者との間の俗に「モノ」、「カネ」、「情報」と言われる財・サービスの空間的、時間的移転に関する理論と実践を学びます。
【商学科のカリキュラム編成上の特色】
商学科では、(1)マーケティング戦略コース (2)観光・サービスコース (3)貿易・ファイナンスコースの３つのコースを設けています。１―２学年においては、３つのコースに共通し学修することが望ましい知識と、それぞれのコースの全体像が把握でき、かつ基礎理論を学べるプログラムを基幹科目として設定しています。３学年から、３つのコースに分かれてより専門的な学修プログラムを提供します。
(1) マーケティング戦略コースは､マーケティング戦略の理論と理論を使える能力を身に付けます。
そのために、マーケティング発想によるプラニング能力、マネジメント能力を育成します。
(2) 観光･サービスコースは､観光分野､サービス分野の理論と実践で使える能力を身に付けます。
そのため、ビジネス状況を理解しつつ、戦略的かつ実践的なプラニング能力、マネジメント能力を育成します。
(3) 貿易・ファイナンスコースは、貿易とファイナンスの基礎知識、専門知識、及び実務で使える能力を身に付けます｡貿易及びファイナンスに必要となる実践的なマネジメント能力を育成します。
【その他の特色】
国際感覚を備えた人材の育成を目標として、インテンシブ・インターナショナル・プログラムを積極的に活用しています。この副専攻プログラムによって、ビジネスの現場で役立つ英語能力と国際感覚を習得できる機会を提供しています。
【会計学科の学修・教育目標】
会計学科では、企業の財政状態、経営成績、キャッシュフローの状況を示す財務諸表を作成し、その内容を分析して、より良い経営の方向性を見出す企業会計の理論と技法を学修し、公認会計士、税理士などの職業会計人や、社内における会計参与や会計エキスパート等として、あるいは会計・財務に関するコンサルタントとして活躍できる人材の育成を目指しています。
【会計学科のカリキュラム編成上の特色】
上記のような人材を育成するために、本学科では、簿記、財務会計、管理会計、監査に関する基礎知識を徹底的に教育する体制を採っています。さらに、こうした専門知識の修得のみならず、会計職業倫理に関する科目を設けて、高い倫理観を兼ね備えた会計人を育成するようにカリキュラムを編成しています。
【その他の特色】
学修の便宜を図るために、会計学科学生のための学修相談室を設け、教員による指導を絶えず受けられるようにしています。
【キャリア・マネジメント学科の学修・教育目標】
キャリア・マネジメント学科では、企業組織におけるキャリアと、組織で働く個人のキャリアの２つの視点から考察し、適切なキャリアパスを見出すことで、個人の能力を最大に引き出し、経営力を高めるための理論と実践を学びます。
【キャリア・マネジメント学科のカリキュラム編成上の特色】
キャリア実践プログラムを積極的に推進し、「仕事とは何か」、「ビジネスとは何か」を現場で直接に学ぶことで、実務経験を積む機会を多く提供しています。
【理工学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】
理工学部では、「学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけ、自律的に考え、判断し、課題解決のために行動・チャレンジできる教養豊かで創造性に富む人材を育成する」ことを教育理念・目標にしています。
様々な角度から物事をみることができる能力や自主的に考え、的確に判断する能力、豊かな人間性を有する人材を育てるという教育の理念・目標の実現のため、一年次に創成科目として「近大ゼミ」を設け、これには学科の全教員が教育に当たり、自ら学ぶ動機付けを与えると共に、自律的に考え、課題を探求し、解決するための基礎となる素養を身につけてもらいます。
今、大学教育では教室における授業だけではなく、授業の前提として読んでおくべき文献の提示や宿題を課すなど学生諸君が事前に行う準備学修・事後学修についても指示を与えるとともに、学生と

教員との対話型授業（学生参加型授業）が求められています。そこで、理工学部では、教員からの一方通行の講義ではなくて、学生に問題を与え、学生が自ら調べ、考えたことを報告させ、「知識の修得」と「社会人基礎力の養成」が一体となった授業を推進しています。

理工学部の教育理念・目的を具体化するために、以下の到達目標を設定しています。

1　教員は学生と真剣に向き合い、学生参加型授業を推進し、「知識の修得」と「社会人基礎力の養成」が一体となった授業の実践に努力する。
2　卒業時における学生の質を保証し、就職などの出口での成果の向上を一層図ると共に教員による出口支援を強化する。
3　国際的資格であるＪＡＢＥＥ認定を受けている工学系の６学科ではＪＡＢＥＥプログラムを積極的、かつ継続的に遂行し、世界に通用する人材を育成する。
4　理工学部の教員養成カリキュラムを一層強化し、毎年50名以上の教員採用試験合格者を目指す。
5　理工学部内に競争的環境を創出し、「知の創造」と「役に立つ」といういずれかの尺度で見て、国内外に大きなインパクトを与える研究成果を発信する。
6　以上の到達目標の実現に努力し、社会で大いに活躍できる有能な人材を育成し、理工学部のブランド力の一層の向上を図る。

【理学科の学修・教育目標】

理学とは？

数学、物理、化学は、数とは何か？宇宙とは何か？物質とは何か？を追求することから出発して人間と自然との関わりを保ちながら、原子、分子のミクロな世界から宇宙のようなマクロな世界までを支配する自然法則を見出そうとしている基礎学問です。現在においてもこの探求は休むことなく続けられています。数学、物理、化学は独立した学問ではなく、互いに密接な関係を保っています。そして、電気、機械、土木などの工学を育んできただけでなく、現在では生命科学、環境科学などの最先端技術にも広く応用されています。現在のめまぐるしく移り変わる社会環境では、技術、知識を習得することも大事ですが、絶え間なく発展する先端技術、方法を受け入れる柔軟な頭脳を養うことと、より発展させる発想力と創造力を身に付けることがより重要です。このような柔軟な頭脳、創造力を育てるためには数学、物理、化学で養われてきたものの見方、考え方を学ぶことが大変役に立ちます。

【理学科の教育理念と目標】

理学教育の総合的、有機的な連携を図るため、理学科は数学、物理学、化学の３コースから構成されています。理学科では学問を単なる知識として教えるのではなく、自然科学に対するより深い興味、喜びを引き出し、学生が自主的に学ぶ習慣を養います。学生が試行錯誤しながら自律的に考えることによって、発想力や創造力を豊かにし、その結果、社会に貢献できる、広い視野を持つ、応用力が効く、柔軟な頭脳を持つ学生を養成します。

【理学科カリキュラム編成上の特色】

理学科では、数学、物理、化学という専門教育だけでなく、自然科学の幅広い知識や他の分野でのものの見方を学ばせるため、３コースが有機的に連携しながら教育を進めています。さらに、理学科では教員志望の学生が多く、数学、理科、情報の教員免許を取得することができ、数学と理科などの２種類の教員免許の取得を希望する学生も多数おります。

このため、理学科では、一定の条件の下で他コースの科目を卒業所要単位に含めて履修することができます。

【その他の特色】

1　技術者、研究者を育てる大学院との連携した教育

科学技術の高度化が進む中で、より高いレベルの技術者や研究者が望まれています。また、中学校や高等学校においても、より質の高い数学・理科教員が望まれています。現在理学科では多くの学部生が大学院へ進学し、卒業研究では大学院生と学部生が連携して研究を行っています。また大学院生はＴＡとして学部の授業にも携わっています。

2　教員採用試験対策講座

教員採用試験の受験を支援するため、理学科教員が中心となって受験対策講座を開設しています。講座の目的としては数学・理科教員を目指す学生に受験勉強のきっかけを作ることにあります。１次、２次試験対策講座だけでなく、特に理科教員を目指す学生に対して、中高生への実験指導教育を行っています。

【数学コースの学修・教育目標】
「数学に夢を持ち、自らの力を信じて挑戦する人間の育成」
　数学コースでは、代数学・幾何学・解析学などの純粋数学から、グラフ理論や暗号理論といった応用数学まで、幅広い分野の教育を行います。学生が達成感を得ることを第一に考え、教員から直接指導を受けられる少人数制のゼミや対話形式の講義、プレゼンテーションの機会を豊富に提供し、従来の一方向の講義では困難な、学生の理解度に合わせた指導を行います。そして、個々人の達成感を原動力に、数学を通して論理的な思考力、総合的な判断力、問題解決能力を身に付け、人生を自ら切り開くことができる人材、そしてそれらの能力によって、社会の発展に貢献し、社会をリードすることができる人材を育成します。
【数学コースカリキュラム編成上の特色】
1　「数学講究(1)～(8)」において、現代数学の基礎をなす微分積分学・線形代数学・集合論・群論などの基本を復習し、講義では扱いきれなかった内容も補足できるよう多角的に学びます。
2　3年次の「数学講究」（教員志望クラス）では、教員の指導の下で3年生が1年生の演習を補佐することで、教育実習を想定した実践経験を積む機会を提供しています。
3　4年次の科目として、現代数学・応用数学の講義を7科目開講しています。ここでは、各方面にわたる数学研究の第一線で活躍している教員が、最新の研究成果に基づく充実した教育を提供しています。
【その他の特色】
　毎年開催される近畿大学数学コンテストにより、学内外の幅広い年齢層の数学愛好家と数学を通して広く交流する場、数学を楽しむ場を提供しています。
【物理学コースの学修・教育目標】
「『物理学（探究する心）は未来を開く鍵』をキーワードに、科学的な考え方を修得する」
　物理は数学と同じく、順序立てて考える技術（論理的思考）を養う学問です。そして、その論理を記述する「言語」は数学なので、物理学コースでは物理数学教育の充実を図っています。低学年の物理実験教育では､実験内容をより深く理解させるため､講義と密接に連携した物理学実験を行います。これによって、自分なりの自然現象、科学についての考え方を持たせ、“自分自身の物理的センスあるいは自然観”を身に付けさせます。卒業研究ゼミナール、卒業研究では具体的な研究を通して各学生の物理的自然観を集大成させます。
【物理学コースのカリキュラム編成上の特色】
1　力学、電磁気学、統計力学、量子力学は物理学の基幹であるため、講義だけでなく、解法（演習）を設けています。
2　低学年から、最先端の物理の魅力に触れさせるため、複数の教員が担当する「物理学最前線」の講義を1年次で開講しています。それぞれの教員が各自の研究分野の魅力や最新の動向などについて、1年生にも分かりやすく講義します。
3　一方、4年生の科目として、現代物理学の講義を5科目開講しています。ここでは、最先端の物理学について、より具体的な講義を行っています。
【その他の特色】
物理学コースで実施している特色ある教育プログラム
1　「基礎物理学実験Ⅰ及びⅡ」
教育効果が上がるように、数名の教員が小人数の学生グループに対して丁寧に実験技術と物理学の内容を指導しています。学生が自ら物理現象に興味をもち、実際の装置・器具でどのようにすれば実験がうまくでき、どのような問題点があるか、装置・方法に改善すべき点や改良の可能性があるかなどを考えさせるような実験テーマ、指導を行っています。実験（測定）器具の扱い方やレポートの書き方等、実験を通じて理解させるのではなく、それらを一つ一つのテーマにしてしっかりと教育しています。また、教員が開発した装置を使った実験も多いのが特徴です。
2　充実したセミナー形式における双方向教育
低学年では近大ゼミ1、2として少人数教育を行い、発想力、創造力を養います。中高学年ではより専門性の高い、あるいは先端の研究を題材にした卒研ゼミナールを通して少人数教育を行います。
3　学習支援室（基礎サポ）
高校で物理を履修してこなかった学生、入試科目で物理を選択しなかった学生、また大学での物理の

講義が分らない学生など、高校で物理学を苦手科目と意識してしまった学生にとっては、授業だけでこの苦手意識を払拭させることは困難になっています。このような現状を少しでも改善するため、学習支援室を開設しています。また、物理だけでなく「数学・化学・生物」についても講師が質問対応を中心に丁寧にサポートします。

【理学科化学コースの学修・教育目標】

化学コースでは、物質世界を解明する中心的なサイエンスとして「化学」を位置付け、自然の真理に化学の視点から迫るべく、生命化学、環境科学、新物質の創製などの新しい領域へのアプローチを展開しています。化学の基礎知識やその基本原理を学ぶことでサイエンスの論理性に感動し、自然との調和を目指した技術者、理科系教員、研究者の養成が目的です。また、生命、環境に対する問題意識を持ち、国内外で活躍できる化学の知識及び倫理観を持った人材の育成を目指しています。

【理学科化学コースのカリキュラム編成上の特色】

化学コースでは、できるだけ早い段階から学生が化学に親しむことを目指し、１年次から幅広い専門科目を学びます。理論的な思考力の向上によって理学的な考え方を身に付けるとともに、実験を通して物質の合成、反応、分析、構造決定、物性測定などの実践的なスキルを修得します。したがって基礎学力を養う科目だけでなく演習科目も重視したカリキュラムとなっており、応用にも十分な力を発揮できる人材の育成に配慮しています。１年次開講の「近大ゼミ１、２」は少人数で行なう対話型授業であり、討議能力やプレゼンテーション能力ばかりでなく、相互評価によりリスニング力も養えます。

また、数学、物理、化学という専門教育だけでなく、自然科学全般にまたがる幅広い知識や他分野の視点を学ぶ機会を念頭に､数学コース及び物理コースと有機的に連携しながら教育を進めています。

【生命科学科の学修・教育目標】

2003年、ヒトゲノムの解読が終了し、遺伝子診断・遺伝子治療・ゲノム創薬などが身近になりつつあります。「環境保全を考慮しながら人類の福祉に貢献できる生命科学やゲノム科学の探求に取り組む学科」として、近畿大学理工学部では2002年に生命科学科を誕生させました。生命科学に関する幅広い基礎知識と実践力を身に付け、医療・薬品・食品・化学などの産業で活躍する人材の育成を目指しております。そのため、バイオサイエンス科目を中心に医学・薬学関連科目を充実させています。発生・老化・病気の謎を解き明かすための基盤となる研究を推進し、再生医療や遺伝子診断などの人類のために役立つ最新知識を習得し、それらの分野を総合的に捉えることのできるポテンシャルの高い人材を育成します。深刻化する食糧・エネルギー・環境問題の解決に向け、実験・実習を通してバイオテクノロジーの応用が実感できます。また、総合大学の利点を活かして医学部・薬学部とも連携を取りながら、研究と教育を行っています。

本学には生命科学の教育・研究を目的とする生物理工学部及び農学部が存在しますが、本部キャンパスにある生命科学科の特徴は、「人」を中心に置き、人に役立つ科学・人バイオテクノロジーの研究と教育を目指していることです。

【生命科学科のカリキュラム編成上の特色】

生命科学は広い領域の叡智を結集し、人の幸福のために健全に発展する必要があります。一方で生命科学科が求められる方向性は多岐にわたります｡そのニーズに応えるため､生命科学科ではゲノム、環境から生命倫理まで幅広く総合的に学ぶことができます。基礎と応用を有機的に結合したカリキュラムが作成されております｡具体的には､講義科目と実験･実習科目を連携させ､基礎的な化学実験、生物学実験と専門分野の環境科学実験、分子生物学実験、細胞生物学実験を第１～３学年に設置しています。卒業研究は学科の総力を挙げ、教員と学生が一体となって取り組んでおり、科学的分析や考察を実践的に修得することができます。具体的には遺伝子系、機能分子系、細胞組織系、環境倫理系の４つのフィールドに分かれ、専門性を活かした高度な研究を進めています。

さらに、各種の資格取得に対応するため、高等学校教諭一種免許（理科）、中学校教諭一種免許（理科）、バイオ技術者、環境計量士、放射線取扱主任者、Ｘ線作業主任者、危険物取扱者、食品衛生管理者、食品衛生監視員などの資格認定あるいは受験資格を得ることを可能としております。

【その他の特色】

生命科学科の高度先端技術、および高度教育システムは、時代の先端を担うＪＳＴ（科学技術振興機構）の大型プロジェクトに採択されました。

【応用化学科の学修・教育目標】

応用化学科では、下記(１)～(８)の８項目の学修・教育到達目標を設定しています。

1　よく聞く者であれ、そして学び続ける者であれ。
科学技術が地球環境の保護を前提とした人類全体の幸福をもたらす手段の一つであることを理解し、それに携わる技術者として社会に対し貢献する意欲と実行力を備えている。また、価値観の異なる他者の考えを理解できるだけの広い視野と柔軟な思考力を持つよう努力しながら、自らの問題解決能力を高めるための学修を、自主的かつ計画的に継続することができる。【柔軟性、自主性、継続性】

2　倫理は、技術者の免許証。
科学技術、なかでも、化学工業が社会を便利で豊かなものにしてきたという事実とそれが社会及び自然環境の犠牲をともなってきたという事実を理解し、将来的に科学技術が社会に対して与えうる危険性を排除しつつ最大の利益を生むためのあり方について、考え続けることができる。【技術者倫理、社会性、自己啓発】

3　基礎学力なくして、進歩なし。
数学、物理学、化学、化学工学系科目の基礎知識を身につけ、専門基礎科目の理解、実験及び演習課題の解決に対して統合的に活用することができる。【基礎学力、論理性】

4　基礎から応用、理論から実践へ、そして習得へ。
専門基礎科目及び実験実習科目を通じて基礎的な専門知識及び基本的な実験技術を身につけており、これらの知識や技術を活かして、複雑な問題を解決する能力と実行力を備えている。【応用能力、実験技術】

5　デザイン能力は、エキスパートへの第一歩。
物質の開発及び応用を扱う合成化学及び材料化学の分野における専門的知識を身につけている。他者との多くのディスカッションを通して、課題をさまざまな角度から眺め全体像を理解した上で、解決のための計画を構想できる。専門知識を駆使してその計画を遂行し、課題を解決できる。【専門的課題の解決能力、計画遂行能力、デザイン能力】

6　斬新な技術は、共同プロジェクトから。
複数の分野が関連する境界領域における技術開発の重要性が高まっている現状を理解し、分野の異なる複数の技術者との共同作業を必要とする問題に直面した際に、問題提起からプロジェクトの企画・立案、遂行に至る一連のプロセスを実行できる能力と、全ての段階において、他のメンバーと協調しながらプロジェクトを遂行する能力を身につける。【協調性、デザイン能力】

7　国際性とコミュニケーション能力は、技術者のたしなみ。
計画立案、実験、データのまとめ、得られた結果についてのグループディスカッション、成果の発表といった様々な場面において、問題並びに要点を明確に文章化し、ディスカッションし、プレゼンテーションすることができる。さらに、科学技術英語の読解、表現法について、その基礎力を身につけており、諸外国の技術者との交流を行うことができる。【基本的文章力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、英語基礎能力】

8　情報処理能力は、技術者のかなめ。
文献情報データベースをはじめとする化学技術情報の収集、データ解析及びレポート作成ならびにプレゼンテーション資料作成等に、コンピューター利用技術及び情報処理技術を活用することができる。【情報リテラシー能力、情報処理能力】

【応用化学科のカリキュラム編成上の特色】

1　学生の自立・自発的学修を誘導する教育
　学科教員と大学院生のティーチングシスタントによるきめ細かいサポート体制のもと、数人からなる学生グループでプロジェクトを組み、グループ内で自由に実験をデザインして課題解決を行うＰｒｏｊｅｃｔ－Ｂａｓｅｄ　Ｌｅａｒｎｉｎｇ（ＰＢＬ）を実施しています。
　「近大ゼミ１・２」（課題設定・問題解決科目）、「応用化学実験Ⅴ、Ⅵ」（専門科目）、「卒業研究」（専門科目）など

2　技術者倫理教育の重視
　現在、社会で最も重視されている技術者の倫理の問題に正面から向き合い、１年次から科学技術をめぐる諸問題への理解を深め、倫理観を身につけることができるよう科目を設けています。
　「技術と倫理」（人間性・社会性科目）

３　広い視野と柔軟な思考力を身につける
　技術士、弁理士、企業関係者や他大学教員などによる集中講義形式で「応用化学セミナー」（専門科目）を開講しています。
４　ディスカッション・コミュニケーション能力を身につける
　１年次から、「近大ゼミ」や「応用化学実験Ⅰ～Ⅵ」においてプレゼンテーションを継続的に行い、今日、社会的に最も重視されているコミュニケーション能力が身につくようなカリキュラムになっています。
５　情報処理科目の強化
　「情報処理基礎」（専門基礎科目）、「化学情報処理基礎」（専門科目）の学部共通の情報処理基礎科目に加えて、化学構造やモデリング、専門的な内容を教材にしたデータ処理やグラフ化など、化学分野のより実践的な情報処理教育も実施しています。
６　最先端の実験研究に没頭できる充実した卒業研究
　応用化学科の４年次は、ほぼ「卒業研究」に専念します。物理化学・無機化学・有機化学といった既存の学問領域を超えて、より広い学問領域の立場から、多角的に化学現象の解明、新物質の創出に取り組みます。

【その他の特色】
・応用化学科の教育プログラムは、日本技術者認定機構（ＪＡＢＥＥ）から５年間（平成16年度～平成20年度）の認定を受けました。現在では、応用化学科に入学した学生全員がこのＪＡＢＥＥ認定プログラム「応用化学科」を履修しています。さらに、社会や学生の要望を反映させながら、教員一丸となって継続的な教育改善に取り組んでいます。
・応用化学科では、特に学生実験を重視しています。学生実験専用に導入されている最新の機器分析装置およびマルチメディアシステムを活用しながら、実践的な技術者の育成に注力しています。
・即戦力の技術者・研究者を育成することを目的として、共同利用センターに配備された最新の各種大型機器分析装置を駆使しながら、各研究室でナノマテリアルを中心とした最先端の研究が活発に行われており、その結果、私立大学としては高い大学院進学率を誇っています。

【機械工学科の学修・教育目標】
　機械技術は、カメラ、ＯＡ機器、ロボット、自動車、医療機器、さらに航空機や宇宙ロケット等に活用されており、その普及はいっそう加速化しています。こうした技術の中核にある学問が「モノづくり」の原点である機械工学です。
　機械工学科ではモノづくりの基本となる設計製図能力を重視し、手書き図面から３次元―ＣＡＤ図面に至る一貫した作図能力の修得を目標にするとともに、実験や実習による体験を重視したカリキュラムを編成しています。さらに時代の要求に応えて、人間との接点を持ち社会的ニーズに対応するロボットや自動車に関係する科目も配置した総合的な能力を身につける教育を展開しています。これらの能力に立脚した専門技術の展開能力、問題解決能力を身につけ、機械と人間社会との共生、適合、調和の考えられる国際性豊かな自立的機械技術者の育成を目的にしています。
　ＪＡＢＥＥに対応した機械工学コースと知能機械システムコースの２コース制としています。

【機械工学科のカリキュラム編成上の特色】
特色ある科目名とその内容
１　科目名：機械加工実習、金属加工実習
内容：モノ作りの楽しさ、面白さあるいは作り方を体験させることによって、機械工学への興味を持たせるようにします。全員が形の違う簡単な機械製品（豆ジャッキ、ゼネバカムホイール）を、図面の作成から製品の完成までの全工程をすべて自分の手で行い、完成したときの喜びと感激を体験します。また本実習では工作機械基礎実習とＮＣ旋盤実習とをリンクさせて行っています。
２　科目名：熱力学演習実験、流れ学演習実験、機械力学演習実験、材料力学演習実験、制御工学演習実験、材料工学演習実験
内容：講義により知識を習得させた後、演習を行うことにより知識を身についたものとし、実験で体験させることによって理解度と興味が一層深まることをめざし、より学修効果を上げるように工夫を凝らした科目です。
３　科目名：図学および機械製図、機械製図基礎演習、機械製図演習、設計製図の基礎、設計製図、応用機械製図

内容：モノづくりに必要な図面の書き方の基礎から具体的な機械部品のスケッチ、手書き組立図の作成と作図ツールである２次元・３次元ＣＡＤを用いた機械部品図面の作成を行います。これらの基礎知識に基づき設計製図法を学修し、設計計算からＣＡＤによる設計図面の作成を通して、機械技術者として必要な製図能力を習得します。このため１年生より３年生まで系統的な製図関係の科目を配置しています。
【その他の特色】
・創成科目の特色あるものの紹介（卒業研究ゼミナール）：第６セメスターに開講されている卒業研究ゼミナールは、研究活動に必要な情報収集やプレゼンテーション能力の向上、実験装置の使用・製作などを行い卒業研究への導入教育になるとともに、就職活動をサポートする役目も果たし、教員と学生の相互コミュニケーションの活性化にも役立っています。
・導入教育の特色あるものの紹介（近大ゼミ1,2）：受身の学修ではなく積極的に学修する習慣およびその楽しさを知るとともに、グループで活動し、チームを組んで与えられたテーマに取り組み、問題を解決していく能力とともにプレゼンテーション能力を養います。
【電気電子通信工学科の学修・教育目標】
現代社会では、多面的な角度から総合的に物事を判断できる幅広い知識を備えた技術者が求められています。電気電子通信工学科では総合エレクトロニクスと電子情報通信という２領域を統合し、エレクトロニクスを軸に、高度情報化社会、環境共生社会のあらゆる分野で活躍できる教養豊かなエキスパートを養成するために以下のような学修・教育目標を設定しています。
１　数学、自然科学、コンピュータなどの基本的な知識をベースに、電気電子通信工学の基礎的知識を有する。
２　エレクトロニクス、電気エネルギー発生・伝送システム、情報・通信、制御、コンピュータハードウエア・ソフトウエアなどのいずれかの分野の専門的知識を有する。
３　幅広い工学的知識に基づき、課題を分析し、解決のための適切な計画を立案・実行できる能力を有する。
４　得られた結果･情報を文書･報告書としてまとめる能力及び口頭で正しく伝達する能力を有する。
５　技術者としての社会的責任、科学技術の社会との関わりを自覚する能力を有する。
６　自ら新しい知識や情報を得て、自主的・継続的に学修する能力を有する。
【電気電子通信工学科のカリキュラム編成上の特色】
電気電子通信工学科では、上記の学修・教育目標を達成するために、総合エレクトロニクスコースと電子情報通信コースの２つのコースを設定しています。２年次進級時に希望によりいずれかのコースに配属を行いますが、１年次は全コース共通のカリキュラムであり、２年後期よりコース独自のカリキュラムが始まります。また、各学年に実験あるいは実習科目を配置し、自主的に様々な問題に取り組む能力の育成を図っています。
総合エレクトロニクスコースでは、電気電子工学の基礎科目および強電系の科目が総合的に重点配置されています。講義と演習を一体化し、それらの内容に関連した実験・実習を通して、電気電子現象を確実に把握できるようにしています。電力工学、パワーエレクトロニクス、電気電子材料、光・レーザー工学、センサ工学、メカトロニクスなど、エレクトロニクス技術を支える工学分野全般の基礎力と想像力を兼ね備えた国際的に通用する技術者の養成を目指しています。
電子情報通信コースでは情報の処理、伝達、利用の技術を系統的に学べるカリキュラムを整えています。情報理論をはじめ情報・通信機器、通信システム、制御システム、アナログ・デジタル回路の開発設計、組込み技術や機械学習システム、さらに量子コンピューティングなど今日の高度情報化社会に不可欠なハードウエアに基礎を置いたシステム構築ができるエキスパートの養成を目指しています。
【その他の特色】
実験・実習
２年次の「ものづくり実習」では、各種道具、機械の仕組みとその正しい使用法を習得させ、各々にオペアンプと抵抗を用いた増幅器の製作を行わせ「ものづくり」の楽しさを経験させています。また、３年次の「エンジニアリングデザイン実験」では、通常の実験とは異なり、複数の実験テーマから２テーマを選び、それぞれ６週間に亘って実験を行います。実験手順を示すテキストはなく、受講生自らがグループ作業を通して技術上の様々な問題点を抽出し、その解決法を立案し、実験を遂行し

ます。
資格
本学科で開講されている科目の中から所定の科目を修得することにより第一級陸上特殊無線技師、第二・三級海上特殊無線技師の資格が得られる他、教職指定科目を履修することにより、高等学校教諭第一種免許（工業、情報、数学、理科）及び中学校教諭第一種免許（数学、理科、技術）が取得できます。
【社会環境工学科の学修・教育目標】
社会環境工学科では、社会に貢献する技術者としての基本的な人格形成として「愛と自律ある人材育成」、「技術者としての知識・技術の習得に努め、専門知識を通じて社会に貢献できる人材」、「技術者としての社会的責任の自覚として環境と社会に関心を持ち、問題解決に寄与できる人材」を柱とした教育目的を掲げています。
教育目的を達成していくために、４つの教育目標を設定しています。
１　基本的思想と基礎力
（１）　社会、環境に関心を持ち、自らのあり方を考え、社会奉仕・社会貢献を行うことができる。
（２）　倫理を重んじ、情熱と勇気のある自立した技術者として必要な資質を身につける。
（３）　時代変化に対応して生涯、自主的に学習を継続できる。
（４）　与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめることができる。
２　幅広い知識と技術力
（５）　数学および自然科学に関する知識とそれらを応用する能力を身につける。
（６）　建設技術者として必要な専門的知識とそれらを応用する能力を身につける。人
（７）　住環境から地球環境まで幅広い分野に関心を持ち、自らが行えることを実行できる。
３　創造力・総合力
（８）　社会基盤を計画・設計する際、多角的な専門知識および独創性をもって具体的な形を作り上げることができる。
（９）　社会、環境に対して地球的視点から多面的に課題を抽出し、種々の科学、技術および情報を用いて、総合的に解決できる。
４　コミュニケーション力
(10)　国内外で論理的な記述、口頭発表、討議ができる。
(11)　他分野の人を含む他者との協働で仕事に対処するための調整、コミュニケーションができる。
【社会環境工学科のカリキュラム編成上の特色】
人々が生活しているまちにある環境から社会福祉まであらゆる分野を対象とし、近未来の快適なまちを創造するための幅広い知識とそれを多角的に活用する力を養うことを目的としています。道路や橋、河川、上下水道など、さまざまな社会基盤の構築やまちづくりにおいて、自然環境や社会環境への配慮は切り離すことができません。幅広い視野と高度な技術力を養い、構造物・生態系・水環境・都市計画・コミュニティーづくりについて学ぶためのカリキュラムを構築しています。
【エネルギー物質学科の学修・教育目標】
エネルギー関連技術は、①持続可能社会の実現のための次世代インフラエネルギー技術、②Ｑｕａｌｉｔｙ　ｏｆ　Ｌｉｆｅ　（ＱＯＬ）　向上をささえる医療センサ・デバイス等へのエネルギー供給技術（ライフデバイスエネルギー技術）、さらには③エネルギー技術の革新を可能にするマテリアル創製に至るまで、極めて多岐に渡ります。いずれの技術も、数学・物理学・化学ならびに生命科学、さらに各種工学を適切に組み合わせることではじめて実現可能なものばかりです。エネルギー物質学科では、種々の講義と実験科目を通じて①～③の３領域すべての基礎知識・実験技術を身に付け、そのうえで各自の専門性を高めることができる教育を実施します。これによって、複雑な課題に対応可能な総合力と、モノづくり実践力を身に付けた、将来のエネルギー関連技術の発展に貢献するグローバルな理工系人材の養成を目指します。この目標を達成するため、エネルギー物質学科では、以下の学修・教育到達目標を設定しています。
１　関心・意欲・態度
（１）　社会とエネルギー関連技術の関わりに高い関心をもちながら、自主的な学修を継続できるこ

と。
（2） 理工系人材として必要な倫理観を備え、それに基づいて行動できること。
2 思考・判断
（1） 専門分野の異なる研究者・技術者や、文化的背景の異なる人々の考え方を寛容し、新たな技術開発や行動規範に柔軟に取り入れる思考能力をもつこと。
（2） 与えられた課題を解決するにあたり、メンバーと協力しながら計画を立案できること。
3 技能・表現
（1） シミュレーションやインフォマティックスを活用する能力を身に付けていること。
（2） 物質合成やデバイス構築のための基礎的な実験技術を身に付けていること。
（3） 課題解決までの一連のプロセスを、文章および口頭で論理的に説明し、他者と建設的に議論できること。
（4） データ解析、報告書、プレゼンテーション資料作成のための情報処理技術を身に付けていること。
（5） 上記(1)～(4)に英語を活用し、グローバル人材として諸外国の研究者・技術者と交流を行える基礎的な科学技術英語力を身につけていること。
4 知識・理解
（1） 数学・物理学・化学の基礎を修得し、それらを専門科目における基礎理論を理解するために利用できること。
（2） 「次世代インフラエネルギー」「ライフデバイスエネルギー」「マテリアル創製」の３領域全てにおいて基礎的な知識を身に付けており、さまざまな現象を「エネルギー変換」に結びつけて説明できること。
（3） 上記３領域のうち、１つの領域に関して、より高度な専門知識を身に付けていること。
（4） 専門知識と実験技術を適切に活用しながら、複雑な課題を解決する能力を備えていること。

【エネルギー物質学科のカリキュラム編成上の特徴】

エネルギー物質学科では、上記の学修・教育到達目標の達成のため、以下のような特徴をもつカリキュラムを編成しています。

1 １年次の専門科目「エネルギー物質概論」「エネルギー物質物理学概論」「エネルギー物質化学概論」を必修とし、多岐にわたるエネルギー関連技術を学び、社会とエネルギー技術への関心を高めます。これによって、エネルギー関連技術を自主的かつ継続的に学び、新たな技術に対応できる能力を身に付けます。また、１年次から３年次にわたって少人数・対話形式の科目である「近大ゼミ１・２」「エネルギー物質ゼミ１～４」を必修とし、理工系人材としての倫理観や、自ら学び続ける力を身に付けます。
2 「近大ゼミ１・２」「エネルギー物質ゼミ１～４」での少人数グループ活動を通じて、他者の意見を取り入れる柔軟性と協調性を身に付けます。さらに、ゼミと実験科目が連動したＰＢＬ活動を実施し、メンバーと協力しながら課題解決のための計画を立案する能力を身に付けます。
3 １～３年次にわたって、エネルギー関連技術を支える物理学・化学・生物学に関する実験科目を必修科目として履修し、物質合成やデバイス構築のための基礎的な実験技術を身に付けます。これらの実験科目では、データ解析・報告書・プレゼン資料作成に利用できる情報処理技術を修得するとともに、プレゼンテーションやディスカッションを通じたコミュニケーション能力を身に付けます。また、これらの活動には英語の活用も取り入れ、実践的な英語力を習得します。さらに、２・３年次には、実験科目と連動した「基礎化学情報処理」「数理情報処理」「インフォマティックス実習」を必修科目とし、課題解決に利用できる最新の情報処理技術を身に付けます。
4 １年次・２年次に「化学数学演習」「物理数学演習」「数理解析演習」を必修科目として履修し、物理や化学を学修する上で必要な数学の活用能力を身に付けます。専門科目は内容に応じて「次世代インフラエネルギー」「ライフデバイスエネルギー」「マテリアル創製」の３領域に分類されており、２年次までは３領域全ての基礎理論を学ぶことで様々な現象を「エネルギー変換」に結びつけて理解・説明できる能力を養い、３年次からは１つの領域の科目を重点的に学ぶことで専門性を高めます。４年次の卒業研究では、高度な専門知識と実験技術を適切に活用し、複雑な課題を自主的・継続的に解決する実践力を身に付けます。

【その他の特色】

近畿大学は教育用原子炉施設を有する唯一の私立大学であり、本学科では原子炉施設を活用した教育も実施致します。同時に低炭素社会のための再生可能エネルギーについても学び、将来の社会基盤となるエネルギーについて俯瞰できる能力を養います。一方で、生命現象におけるエネルギー変換についても学び、新技術の創出につながる教育・研究も行います。

１年次と２年次には、多岐にわたるエネルギー関連技術を、物理学・化学・生物学の基礎と結びつけながら幅広く学びます。その過程で得意分野を見出し、各自の将来設計に応じて「次世代インフラエネルギー」「ライフデバイスエネルギー」「マテリアル創製」の３領域から１つを重点的に学び、専門性を高めることができます。

さらに、ＩｏＴの発達を伴う超スマート社会の到来を見越して、シミュレーションやインフォマティックスの活用といった情報リテラシー教育および研究への活用も重視しています。

【建築学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

建築学部では、「つくり・守り・育てる建築学の修得と共に、学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけ、自律的に考え、判断し、課題解決のために行動・チャレンジできる教養豊かで創造性に富む人材を育成する」ことを教育理念・目標とします。

様々な角度から物事をみることができる能力や自主的に考え、的確に判断する能力、豊かな人間性を有する人材を育てるという教育の理念・目標の実現のため、一年次に「近大ゼミ１・２」を設け、これには学科の全教員が教育に当たり、自ら学ぶ動機付けを与えると共に、自律的に考え、課題を探求し、解決するための基礎となる素養を身につけさせます。また、建築専門技術の修得については、１年次、２年次は設計教育を中心に建築学全般に対する基礎学力を身につけさせます。

今、大学教育では教室における授業だけではなく、授業の前提として読んでおくべき文献の提示や宿題を課すなど学生諸君が行う事前学修及び事後学修についても指示を与えるとともに、学生と教員との対話型授業（学生参加型授業）が求められています。そこで、建築学部では、教員からの一方通行の講義ではなくて、学生に問題を与え、学生が自ら調べ、考えたことを報告させ、「知識の修得」と「社会人基礎力の養成」が一体となった授業を推進します。

建築学部の教育理念・目的を具体化するために、以下の到達目標を設定しています。

・建築学部の教育理念

技術者教育と建築家教育を総合した独自の体系をもつ我が国のホリスティックな（包括的にバランスのとれた）建築教育の良さを生かした専門教育を目指します。

・学修・教育目標

１　人類の英知である人文科学・社会科学についての一般的知識と素養を養う。
２　将来の技術者として必要とされる語学能力、コミュニケーション能力を養う。
３　数学・自然科学の基礎的専門知識・能力、及び情報などの先端的領域の基礎知識を養う。
４　技術が自然及び人間社会に対して果たすべき役割を学ぶことを通して技術者倫理を身に付ける。
５　自発的・主体的に学び、自ら考える習慣・力を身につける。
６　建築と人間、社会の関係について理解し、それを方向づけるための企画・設計・計画についての基礎知識を修得する。
７　歴史・社会・経済、住生活との関係で建築・都市を多面的にとらえ、総合化する基礎的能力を養う。
８　建築構造を実現するために必要な方法・技術に関する知識、及び建築構造を理解するために必要な力学的知識を修得する。
９　建築材料の種類・特性及び建築生産の方法・プロセスに関する基礎的知識を修得する。
10　快適・健康・安全を持続させる建築環境を工学的に認識・評価する技術を修得する。
11　社会資産として建築を作り、維持管理するために必要な知識を修得する。
12　建築各専門分野の基礎知識の上にたち、より複雑な機能・現象や境界領域について、専門的知識、能力を養う。
13　幅広い知識を総合して具体的提案に結びつけるデザイン能力とそれを的確に表現するプレゼンテーション能力を身につける。
14　計画的に演習・調査・実験を行い、そのデータを整理・集計・分析する能力を養う。
15　設計演習などで、明らかにすべき課題に対して創造的に考え、問題解決に導く能力を養う。
16　ゼミナール演習、卒業研究を通して、社会から要請される専門分野に到達する能力を養う。

【建築学科のカリキュラム編成上の特色】
デザイン重視の欧米の建築家教育に対し、技術者教育と建築家教育を統合した独自の体系を持つ日本の建築教育は、国際的にも高く評価されています。建築学とは人間のための快適な空間と環境を創造する学問であり、時代によって求められる建築も変わります。それゆえ、常に自己変革できる能力を備えた人材が求められます。本学科では、近畿大学理工学部建築学科のこれまでの歴史の中で培われてきた包括的な建築教育を建築工学専攻の中で継承しながらも、建築家養成コースである建築デザイン専攻、「住まい」の建築学を総合的に学ぶことのできる住宅建築専攻、新しい時代に対応した守り育てる建築を専門的に学ぶ企画マネジメント専攻を新しく設置します。
建築工学専攻では、建築学科の長い歴史の中で培ってきた多くの卒業生のネットワークを活かしながら総合建設業を中心に建設業界で活躍できる人材を育成します。
建築デザイン専攻は、大学院との連携を重視しながら、建築家との交流の機会を活発に設け先鋭化した建築家教育を実施します。
住宅建築専攻は、これまで多くの卒業生を輩出してきた住宅産業で活躍できる人材を引き続き育てながらも、インテリアや外構計画を含めた、「住まい」に関わる建築学を総合的に学ぶことができます。
企画マネジメント専攻では、建設業の枠を超えて住宅・建築・都市に関わる様々な業態に対応できる能力を身につけ､建設関連業界に対する社会の新しい要請に応えることのできる人材を育成します。
理工学部建築学科から建築学部に生まれ変わることによって、工学だけではなく、また文系・理系の枠を超え、社会や時代が真に求める建築を学ぶ機会を提供することをお約束します。少人数教育の重視、フィールド調査や内外セミナーへの参加など、学外や社会との関係・連携を重んじ、バランス良く、総合的な力を備えた専門家を育成します。
【その他の特色】
建築学科では、４専攻とも、一級建築士をはじめ、二級建築士、木造建築士、建築施工管理技士などの技術的な資格に加え、宅地建物取引主任者や不動産鑑定士といった建物全般に関わる資格の取得を考慮した教育を実施します。できるだけ多くの資格を在学中に取得できるよう、支援体制を整えています。
【薬学部の教育研究の理念と目的・育成する人物像】
薬学部は、近畿大学建学の精神、すなわち「実学教育と人格の陶冶」に則り、『21世紀の生命科学、基礎薬学、創薬科学、医療薬学、衛生薬学などの基盤に立脚し、医療に貢献できる薬剤師を養成するとともに、これらの薬学分野での研究に貢献し、活躍できる人材の育成を行うことにより、人類の福祉と健康に奉仕すること』を理念としています。
これを実現するために、薬に関する幅広い専門知識や最先端のテクノロジーに精通したグローバルに活躍できる人材を育成します。
【医療薬学科の学修・教育目標】
医療薬学科では、近畿大学の建学の精神である未来志向の「実学教育と人格の陶冶」に則り、「薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力ならびに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成する」ことを目標としています。
【創薬科学科の学修・教育目標】
創薬科学科では、近畿大学の建学の精神である未来志向の「実学教育と人格の陶冶」に則り、「医薬品の創製・発見や開発・適用などの分野で社会と人類の福祉と健康に貢献できる創造性にあふれた有能な薬学研究者、薬学技術者を社会に輩出する」ことを目標としています。
【薬学部のカリキュラム上の特色】
薬学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる教育目標を達成し、薬に関する幅広く高度な専門知識と優れた臨床能力を有する薬剤師、リサーチマインドを有し、医薬品の開発などに貢献できる人材を養成するために、医療薬学科では最先端の薬物治療や臨床薬学等に関する科目を、創薬科学科ではレギュラトリーサイエンスやゲノム科学等に関する特色ある科目を設置しています。
＜共通教養科目＞
高い倫理観と使命感を醸成するための人文・社会系の科目とともに、専門科目の理解に必要な基礎学力を養う自然科学系の科目を提供します。また、「近大ゼミ」では、少人数グループで薬学や生命科学に関する課題を自ら設定し、協働的に学修することで解決し、成果を発表すると共に、ルーブリ

ック評価を取り入れて能動的な学修姿勢を醸成します。幅広い教養系科目を通して、専門科目の学修に対するモチベーションを高めます。
＜外国語科目＞
医薬品開発や製薬業界のグローバル化が進展する中で、グローバルに活躍できる人材を育成するために、ネイティブ教員を含む語学専任教員による少人数制の語学教育プログラムを導入し、外国語を継続的に修得できる科目を開講しています。さらに、英語圏以外の地域における言語・文化・社会を学修できるように、初修外国語としてドイツ語、フランス語、中国語を開講しています。これらの学修成果は、客観試験、論述試験、プレゼンテーションにより評価します。
＜専門科目＞
医療薬学科では、基礎薬学、衛生薬学や社会薬学に加え、最先端の医療薬学に関する講義、演習、実習を開講しています。臨床に直結する薬物治療等に関する科目に加えて、遺伝子治療や再生医療などに関係した最先端医療系科目を導入しています。また、倫理観や責任感を身につけるために、早期体験学習では病院における看護体験を、医薬合同学習ではチーム医療の基礎を学ぶため医学部の学生と小グループでのディスカッション・発表する機会を設けています。
創薬科学科では、医薬品開発を始め、食品薬学や香粧品に関する基礎から発展まで幅広い創薬研究に対応できる知識と技術を修得するための科目に加え、有機合成化学や分析化学関連の講義を充実させるとともに、ゲノム創薬やｉｎ　ｓｉｌｉｃｏ　分子設計学など最先端の講義と実習も導入しています。また、プレゼンテーションや実践的な外国語を修得することができる科目を置いています。
各専門科目の評価には、知識を確認するための試験やレポートに加え、技能・態度はルーブリックにより評価されます。
＜実習・演習科目＞
課題発見・問題解決能力、コミュニケーション・プレゼンテーション能力及びディスカッション能力を身につけるため､両学科共に１年の情報科学実習から３年間にわたる実習科目を設定しています。また、３年から開始される長期にわたる卒業研究を通して、課題発見・問題解決能力を養うことのできるカリキュラムとしており、ルーブリック評価と発表会のプロダクト、プレゼンテーション及び質疑応答を複数の専任教員で評価しています。医療薬学科では、４年次以降にデータサイエンスを学ぶと共に、実務実習事前学習や病院と薬局における臨床薬学実習において、地域医療、チーム医療及び最先端の薬物治療に関する知識、技能及び態度を身につけることができます。創薬科学科では、グローバルに活躍できる人材を育成するため、プレゼンテーション能力や英語力の向上を目指した演習も開講しています。
【医療薬学科のカリキュラム上の特色】
医療薬学科では、「薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力ならびに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成する」ことを実現するため、以下のような方針で、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目、および本学独自の科目を年次に応じたカリキュラムとして配置し、その体系性や構造はカリキュラムマップおよびカリキュラムツリーに明示しています。
＜共通教養科目＞
医療人に求められる広い教養､高い倫理および使命感を醸成するために人文･社会系の教養科目を、また、専門科目の理解に必要な基礎学力を養うために自然科学系の教養科目を提供します。定期試験等での成績評価を行い、双方向教育支援システムを用いる評価を奨励しています。
自主的、協調的かつ能動的に学修・行動する能力とコミュニケーション能力を醸成するため、少人数グループ討論授業を実施します。討論・発表の内容をルーブリックで評価します。
＜外国語科目＞
医療のグローバル化に対応できる人材を育成するために、ネイティヴ教員を含む語学専任教員による語学教育や臨床薬学英語などを実施して国際性を涵養します。これらの学修成果は、客観試験、論述試験、プレゼンテーションにより評価します。
＜薬学基礎科目＞
薬剤師の資質を活かして社会および地域に貢献するという使命感と、患者の立場を理解し、患者本位の医療の発展に寄与する意欲を醸成するために、初年次に専門性を持った教員によるオムニバス形式の薬学概論や医学部、医療施設、研究施設、企業等を訪問する早期体験学習を実施します。学修到

達状況は、レポート、客観・論述試験筆記試験、プロダクトをルーブリックによるパフォーマンス評価などによって評価します。
生命の尊さを認識して倫理的な判断力を醸成するために、グループ討議を取り入れた生命倫理を実施し、学修到達状況は、ルーブリックによるパフォーマンス評価、自己評価、他己評価によって評価します。
医療人として必要とされる広い教養と自然科学に関する知識を身につけるために、入学初期からリメディアル教育を含む化学入門、基礎化学、生物学入門、基礎生物学を実施し、さらに、物理化学、分析化学、有機化学、薬用資源学、生化学、人体生理学、情報科学などの薬学基礎科目を体系立てて実施します。これらの学修到達状況は、客観試験や論述試験で評価します。
＜薬学専門科目＞
薬剤師の役割を理解し、自主的、かつ協調的に行動できる力、医療や人の健康に関わるうえで必要とされる広い教養と幅広い専門知識を修得するため、病態薬理学、製剤学、薬物動態学、薬物治療学、公衆衛生学、漢方薬学、薬学統計学などの薬学専門科目の講義・演習・実習を体系立てて実施し、双方向・対話型講義を導入しています。修得した知識は客観試験や論述試験で評価し、実習や演習の学修成果は、技能・態度に適した方法で評価します。
また、高度で多様化する薬物療法に関する基本的技能の修得や多職種間での連携を実践できるコミュニケーション能力を醸成するため、実習では、小人数での参加体験型課題やグループディスカッションを積極的に実施します。学修到達状況は、レポート、プロダクトなどをやルーブリックによるパフォーマンス評価によって評価します。
さらに、基本的な研究技術と薬学・医療の発展に応用できる課題発見・問題解決能力を身につけるために、３年次後期以降に学生が主体的に研究に携わる卒業研究を実施します。卒業研究では、医療・研究倫理に関する教育も行い、様々な問題について倫理的な判断ができる力を涵養しています。これらの学修成果は、プロダクトなどをルーブリックによるパフォーマンス評価によって評価します。
＜薬学臨床科目＞
医療専門職としての薬剤師の役割を理解し、自主的、かつ協調的に行動できる力、薬剤師として必要とされる広い教養と医療に関する様々な問題を理解できる幅広い専門知識を修得するために、医薬品情報学、治験、社会薬学、医療薬事関係法規、医薬連携学習、フィジカルアセスメント、医療情報演習、臨床薬学実務実習などに関する薬学臨床科目の講義・演習・実習を体系立てて実施し、双方向・対話型講義を積極的に導入します。修得した知識は客観・論述試験で評価し、実習や演習では到達度やパフォーマンスの質を評価します。
薬剤師に必要な調剤や服薬指導に関する基本的な技能を修得し、医療の実践で応用できる能力を身につけるとともに、多職種連携を実践できるコミュニケーション能力を高めるために、薬学臨床科目の実習では、グループワークなどのアクティブラーニングを積極的に取り入れ、知識の評価とパフォーマンス評価を行います。
修得した専門知識・技能・態度を基に、多種多様な薬物療法や技術に触れて薬学・医療の発展に応用できる課題発見・問題解決能力を醸成させるために、４年次～５年次にかけて臨床現場で実践的な体験で知識を活かし技能を高める臨床薬学実務実習を実施します。医療に関する高い倫理観と責任感を有し薬剤師の使命感および患者本位の医療の発展に寄与する意欲を培い、医療における様々な問題について倫理的な判断ができるように、１年次から５年次までシームレスに薬学臨床科目の実習を実施します。その到達度はルーブリックによるパフォーマンス評価によって評価します。
【創薬科学科のカリキュラム上の特色】
創薬科学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる教育目標を達成し、医薬品の創製や生命科学分野、医療産業において、グローバルに活躍できる人材を社会に輩出するため、医薬品創製に関する基礎教育を行うとともに、最先端の生命科学研究の知識とテクノロジーに関する講義と実習を行います。
特に、強い探究心と高い倫理観を持ち、「課題発見・問題解決能力」、「コミュニケーション能力」、「ディスカッション能力」に秀でた人材を育成すること、社会で通用する実践力の高いキャリア形成に主眼を置いています。カリキュラムの体系性や構造はカリキュラムマップおよびカリキュラムツリーに明示しています。
＜共通教養科目＞
人文・社会・自然科学にわたる幅広い科目の学修を通し、豊かな教養と高い倫理観を身につけます。

総合大学ならではの医学部・法学部・薬学部合同講義となる「教養特殊講義Ｂ」では、尊厳死、安楽死、臨死介助、死生観などの医療・生命倫理を学修します。
初年次の「近大ゼミ」では、少人数グループで薬学や生命科学に関する課題を自ら設定し、文献調査やフィールドワークを通して協働的に学修することで解決し、成果を発表します。これらを通し、能動的・主体的な学修姿勢を涵養します。評価にはルーブリックを用います。
また、地域性・国際性科目群では「国際化と異文化理解」を開講し、変遷する国際社会で活躍するための基礎知識を学びます。
＜外国語科目＞
グローバルに活躍できる人材を育成するために、英語教育に力を入れています。１・２年次には各セメスターに語学教員による週２回の「英語演習」と週１回の「オーラルイングリッシュ」を必修とし、継続的に英語に触れ、専門英語につながる基礎力の向上をはかります。
また、英語圏以外の地域における言語・文化・社会についての学修のため、初修外国語としてドイツ語、フランス語、中国語の各科目を置いています。
＜学部基礎科目＞
１年次後期から始まる薬学専門科目を学修するうえで必要となる、化学および生物の基礎力を確かなものとするための必修科目群を設置しています。特に、高校で化学あるいは生物を履修していない学生には、リメディアル教育を含めて基礎知識を修得できる機会となります。
＜専門科目＞
医療の担い手として求められる倫理観を、１年次前期開講の「薬学概論」と「教養特殊講義Ｂ」を通して入学後の早期から涵養し、「卒業研究」や「医薬品開発論」を通し、研究倫理や安全性や信頼性といった医薬品における倫理性について学びます。
薬学を理解するためには、他の理系分野とは異なり、幅広い分野にまたがる知識の修得が必要となります。各分野の基礎的な知識をまんべんなく修得するために必修科目として設定し、より多彩な知識を身につけた学生の輩出を目指します。またこれら知識を習得することで、医薬品の創製にかかわる必須の知識に加え、医薬分子と生命現象、疾病や病態との関わりを分子レベルから生体レベルまで解析する最先端の生命科学研究の知識とテクノロジーを体系的に学ぶことができます。
一方、希望する薬学部の研究室で研究を早期体験できる「オープンラボ」（２年）は、創薬科学科の特色のある科目の一つで、実際の研究を体験することで専門科目の学びの必要性を理解し、学修するモチベーションを高めることができます。
＜専門英語科目＞
研究室に配属後は、学術論文を読むことは必須となりますが、専任教員による「薬学専門英語」では文献を講読するうえで基本となる化学・生物の専門用語や学術論文の構成などを学びます。これにより、研究を進める上で必要となる情報を自ら得ることができるようになります。
また、語学専門教員および留学経験のある教員による「プレゼンテーション英語演習」では、国際学会で研究成果を発表するうえでの基本的な知識・スキルを学ぶことを通し、研究者として不可欠な英語におけるコミュニケーションやプレゼンテーション能力を高めることができます。
＜実習科目＞
１年次には、「情報科学実習」や「データリテラシー入門（共通教養科目）」により、勉学や研究のみならず今後の社会生活を営む上で必要となるＩＣＴの活用スキルを身につけます。また、２年次から始まる専門実習の基本的な手技を「基礎薬科学実習」で学びます。
２年次からの専門実習では、専門科目の講義で学修した知識や技術を実習で体験することにより理解を深めるとともに、研究室配属後の研究活動にすぐに活用できるスキルを獲得できます。
３年次前期から研究室配属になり実施する「卒業研究」は、創薬科学科の学びの中で最も重要な位置づけにあります。課題を探求し、最先端の科学的知識を取り入れ、問題を解決する論理的思考力を養成します。また、定期的に研究成果を報告することにより、プレゼンテーションやコミュニケーション、ディスカッション能力を高めます。そして、研究者倫理に則り、最後まで倫理観・責任感・使命感をもって研究を遂行することで、社会で通用する実践力を養成します。卒業論文および卒業研究発表会のプレゼンテーションと質疑応答等により専任教員が達成度を評価します。
＜キャリア形成関連科目＞
アドバンスト科目Ⅰおよびアドバンスト科目Ⅱでは、専門科目で学んだ知識を深め、より専門的な

知識を学ぶための科目を配しています。さらに漢方・食品・香粧品などの多様な薬学関連科目を配し、学生個々の興味や進路に応じて学ぶことができると同時に、広い視野を獲得し、様々な専門性・職種の人材と交流できる知識・姿勢を涵養します。

実践科目では、これまで学んだ知識をもとに社会に出て活躍する上で必要な実践的な内容を学ぶ科目を配置しています。２年次の「キャリアデザイン」では、広い視野で就職および生涯にわたるキャリア形成を考える機会を提供するとともに、「進路・就職活動」の意識づけを行います。また、「医薬品開発論」では医薬品の開発過程を学ぶとともに、グループディスカッションなどを通して医薬品開発において重要なレギュラトリーサイエンスについても考えていきます。

また３年次の「産学連携講座」では、様々な業種で働いておられる卒業生の方に会社や業界の現状について講演していただき、就職活動に備え、必要な知識を学んでいきます。さらにインターンシップに積極的に参加してもらうとともに、そこで得た情報を多くの人と共有できるように「インターンシップ」も開講します。

臨床検査技師国家試験の受験資格取得希望者には、近畿大学病院等との連携のもと、薬学の専門科目を学びながら臨床検査技師の基礎知識・臨床技能を身につけるカリキュラムを展開しています（選択必修科目ＩＢ、ⅡＢおよび自由選択科目）。

【文芸学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

本学部は、文学科（日本文学専攻、英語英米文学専攻）、文化・歴史学科、芸術学科（舞台芸術専攻、造形芸術専攻）、文化デザイン学科の４学科４専攻で構成され、未来志向の「実学教育と人格の陶冶」という建学の精神をふまえたうえで、それは、文学、文化・歴史、芸術、文化デザインのどの学科に学ぼうとも、人間の命（いのち）を護り、その命を輝かせる歴史的・社会的な試みこそが今と未来を担う者の責務であることを、共通理念として根底に置いた教育の場を実現することであり、この理念は、文芸学部を創設した平成元年以来一貫して保持されてきました。文芸学部は、現在そして未来に向けて、その実現を教育研究の目的とし、その目的を体現する人材の育成を目指しています。

【文学科の学修・教育目標】

文学科は日本文学専攻と英語英米文学専攻の２専攻構成になっています。

日本文学専攻

日本文学専攻では、「日本文学」と「日本語学」をグローバルな視点から学ぶために、「言語・文学コース」「創作・評論コース」の２コースを設け、「日本文学」と「日本語学」についての幅広い知識を身につけ、読解力・思考力・分析力・表現力・創造力を磨くことを目標とします。「言語・文学コース」では、日本語の歴史と言語学的思考や理論、及び日本文学の歴史と表現方法や思想などを学びます。「創作・評論コース」では、文学テクストの批評理論や創作技法を学び、文学創造の実践を行います。言語研究・文学研究・文芸批評・文学創作にとどまらず、日本語や日本文学の背景にあるグローバルな歴史、文化、社会、思想についても広く学ぶようカリキュラムを編成しています。

英語英米文学専攻

英語英米文学専攻では、「深い教養と志をもち、社会を支える気概を持った学生を育成し、社会に送り出すことを最終教育目標」とする近畿大学のディプロマポリシーを旨として、英語圏の文学・文化、言語領域に関する専門知識と高度な英語運用能力を修得した人材の育成を目指しています。卒業までに身につけるべき資質・能力に関して、本専攻では以下のような学修・教育目標を定めています。

1. 高度な専門教育を経て、学士号取得に至ることに誇りを持ち、国際社会及び地域社会に自らの力を還元しようという志を持っていること。
2. 国際的に困難な状況においても和を成すことができるような、他者との高いコミュニケーション能力を所持するに至っていること。また、そのための幅広く、深い教養を得ていること。
3. 専門知識・技能の修得により、学士として総合的に高いレベルに到達していること。また、これらの知識と技能に裏打ちされた専門分野の研究活動（卒業論文・卒業研究）において、説得力のある議論を構築する能力を修得していること。
4. 所定の科目の内容を修得し、勉学への高い志が見られること。また、外国語としての英語の能力を高い次元まで伸ばし、社会で求められる幅広い運用能力を身に付けていること。

【文学科のカリキュラム編成上の特色】

日本文学専攻

日本文学専攻は「言語・文学コース」と「創作・評論コース」の２コースを設けています。１、２

年次で日本文学や日本語についての包括的、概論的知識を身につけ、３、４年次においては、日本語学、古典文学、近現代文学（以上言語・文学コース）、文芸創作、文芸評論（以上創作・評論コース）の５分野に分かれて、専門的な知識や思考方法、あるいは創作技法を学び、研究や創作の実践を行います。両コースは独立したカリキュラムをもっていますが、言語表現を読むという点では一致するので、概論的授業においては両コースの交流と融合を図っています。最終的には、各コースのそれぞれの分野に即した研究ないしは創作の成果を、論文又は作品としてまとめ提出して審査を受けます。

英語英米文学専攻

英語英米文学専攻では、英語圏留学制度の充実、及び少人数制クラスとチュートリアル制のきめ細かな個別指導が特色です。徹底した個別指導による、高度な英語コミュニケーション能力の育成と英語圏における文学作品や文化の研究指導、さらに卒業論文の制作指導などによる分析的思考力や論理的表現力の涵養など、世界を視野において積極的に活躍できる人材の育成を目指します。

【芸術学科の学修・教育目標】

芸術学科は舞台芸術専攻と造形芸術専攻の２専攻構成になっています。

舞台芸術専攻

舞台芸術の創作・制作活動は、複数の人間による共同作業を基本とし、他者を意識しながら自身の成長を促す表現行為であり、コミュニケーション能力の向上、さまざまな人間への深い理解と共感について学ぶことができる可能性を秘めています。本専攻では、総合芸術としての舞台芸術の中でも、特に、演劇、舞踊、戯曲の創作を実践的に学ぶこと、かつまた、それらについて学術的、批判的、歴史的に学ぶことを目的とし、４つの学びの系によるカリキュラムを用意しています。

本専攻の学修・教育目標は、舞台芸術を人間社会における重要かつ普遍的な文化的営みの一つとして認識すること、舞台芸術の持続と発展に寄与する人材の育成にあります。グローバル化する日本において、民主主義社会における芸術の役割について深く考え、よりよい社会を構築する為に、社会的想像力を育み、集団で表現内容や表現形態を模索し、常識に果敢に挑戦しながら創造することを実現できる人間の育成を目指しています。

本専攻は、実学教育に基づき、幅広く舞台芸術に携わる可能性をもつ人材（俳優、ダンサー、劇作家、演出家、振付家、プロデューサー、アドミニストレーター、技術スタッフ等）の育成を目指すばかりでなく、人格の陶冶を目指して、舞台芸術への造詣を深めることで、精神的にもより豊かな生き方を選択できる人材、他者への暖かいまなざしを持つことができる人材の育成を目指しています。

造形芸術専攻

造形芸術専攻は、「造形芸術を通じて、教育現場や社会に貢献できる人を育成する」、「専門的な力を持つ造形芸術作家やデザイナーを育成する」、「ゼミナール、ワークショップ、イベント企画、産学連携アートプロジェクトを通してコミュニケーション能力及びマネージメント能力を身に付けた人を育成する」、「グローバル（アート）教育、国際アート交流プロジェクトを通して国際交流に意欲を持つ人を育成する」、を教育の目標としており、厳格な成績評価により教育カリキュラムを運営しています。これらの趣旨をもとに開講された科目を履修して、所定の単位を修得した学生に卒業認定し、学士（文芸学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力を以下に示します。

関心・意欲・態度.

1. 疑問を持った事柄を放置せずに解決に向かうことができること。
2. 既成概念にとらわれず常に新たな発想を持つことができること。

思考・判断.

1. 多角的視点で物事を観察し、批判的思考を働かせ、自ら主題を設定する能力を身につけること。
2. 「感じる・考える・創り出す」を積極的に繰り返し、自発的な発見・判断ができること。

技能・表現.

1. 専門分野の基本的な知識と技術を身につけること。
2. 自分の作品について、論理的に発表できるプレゼンテーション能力を身につけること。

知識・理解.

1. 社会における芸術の役割を具体的に説明できること。
2. 専門分野に関する歴史や成り立ちを理解できること。
3. 社会に貢献できるコミュニケーション能力を身につけること。

【芸術学科のカリキュラム編成上の特色】

舞台芸術専攻
　舞台芸術専攻では、４年間でどのような角度から舞台芸術を学んでいくかの指標として、2016年度から、〔演劇創作系〕、〔舞踊創作系〕、〔戯曲創作系〕、〔ＴＯＰ（Ｔｈｅａｔｒｅ　Ｏｒｇａｎｉｚａｔｉｏｎ　Ｐｌａｎｎｉｎｇ)系〕の４つの系を設けています。２年生から各自が選択した「系」の学びの中心となる核科目と、専攻の共通科目を横断的に組み合わせ、それぞれに独自カリキュラムを作成することにより、多角的に専門的な知識と経験が習得できるようにカリキュラムが構築されています。
　〔演劇創作系〕、〔舞踊創作系〕の学びでは、実習・演習形式の授業を中心に実践的に演劇表現、舞踊表現の創造を探求します。〔戯曲創作系〕の学びでは戯曲創作の実践を積み重ねて創作力を、〔ＴＯＰ〕の学びでは広く舞台芸術作品に接するとともに、舞台芸術の理論、歴史、批評を学んで、考察力、発信力を養います。自らの学びに必要な他学部、他学科、他専攻の選択科目も組み込むことができます。また、演劇の教育的な側面を社会の中で生かすことができるように国語の教員免許取得のためのカリキュラムを設置しています。
造形芸術専攻
　造形芸術専攻では少人数ゼミナール制で「感じる・考える・創り出す」を繰り返すことにより、専門的知識・技術・発想力が身につけられるよう科目を配置しています。また基礎的なものから専門的なものへの段階的教育が組織的に実行されており、１年次は総合基礎として、造形表現全般の基礎を学び、２年次は２領域から１領域を選択し、各領域の基礎を学びます。３年次以降は２年次に所属していた領域から１ゼミナールに絞り込み、専門的な知識・技術を深めます。これにより１年、２年での授業を通し、幅広く造形表現の基礎を学ぶとともに、自分の能力、関心がどこにあるのか模索し、段階的に最終のゼミを選択していける制度になっています。それに加え 、ゼミナールを超えたプロジェクト・ワークショップなどの取組を通してコミュニケーション能力や応用力を強化する機会を設けています。
【文化・歴史学科の学修・教育目標】
　文化・歴史学科は、学問的知識とともに論理的な思考力、健全な批判精神、自分で問題を発見し解決する力、他者の立場を理解し異なった意見に耳を傾ける謙虚な姿勢、自分の意見や着想を他人に伝え積極的に社会にかかわっていく発信力と行動力を兼ね備えた人材の育成を目指し、以下の４つ領域についてそれぞれ具体的な学修・教育目標を定めています。
　関心・意欲・態度
1. カリキュラムポリシーに示された４つの系にまたがる幅広い知識と理解力を身につけることにより、古今東西にわたる幅広い文化・歴史を総合的・俯瞰的に把握する意欲を持つこと。
2. 現代の社会文化に対するアクチュアルで自発的な考察力を持つこと。
　思考・判断
1. 卒業後の自分の進路や自らの社会的使命に対して常に真摯かつ誠実であることを心がけること。
2. 身の回りや社会に生起する諸問題に対する鋭敏な洞察力を鍛えること。
　技能・表現
1. 社会的な積極性をもち、自主性を心がけることのできる人物、そして文化的な意味で個性ある社交的能力に長けた人物となること。
2. 職場、同僚、友人、家族、近隣など日常の人間関係にとどまらず、ボランティアや趣味やＳＮＳなど自らが積極的に関与する広範な人間関係の中で、文化事情についての自己表現を行う技術と能力を発揮する意欲を持つこと。
　知識・理解
1. 4つの系にまたがった広い見識と同時に、自分の専門領域とする文化事象について深い理解を会得し、実践的に応用できる能力を身につけること。
2. 協調性を重視すると同時に、独自の思考と判断のできる能力と表現力を身につけること。
【文化・歴史学科のカリキュラム編成上の特色】
　文化・歴史学科では幅広い知識と深い教養を育むために、コース制ではなく日本史系、世界史系、現代文化・倫理系、文化資源学系の４つの＜系＞を設定しています。４つの＜系＞を横断した学びを通して学生は広い視野と深い専門的知識を修得しながら、最終的に各自の専門とすべき研究分野を絞り込んで卒業論文を作成することが､カリキュラムの主軸となっています｡そのため重要となるのは、

教員との活発な交流を通して学びの実際と楽しさを体得する少人数教育であり、１年次では特に「近大ゼミ」「基礎研究」、２年次では「講読」がその役割を担っています。３・４年次の「演習」（いわゆる「ゼミ」）では主として一人の指導教員について、専門研究に必要な文献読解や現地調査等の研究方法を学び、ゼミ発表を通して社会で必要なプレゼンテーション能力を、論文作成を通じて文章表現力を学んでいきます。

【文化デザイン学科の学修・教育目標】

文化デザイン学科は、人文諸学の基礎的知識と感性的直観力、美的感性と倫理的思考力を養い、それらを基礎にした実践活動に必要な創造的思考力・デザイン思考・マネジメントカ・情報分析力、さらにチームワークに必要なコミュニケーション力・調整能力、加えて困難を克服するための問題解決能力などを修得した人材の育成を教育の趣旨としています。

この趣旨のもとに厳格に成績評価を実施し、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（文芸学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のとおりです。

関心・意欲・態度

1. 様々の社会現象に問題意識を持ち、その課題の解決への探求心を持つこと。
2. 解決すべき課題を他者と共有し、積極的にコミュニケーションを図ること。

思考・判断

1. 感性と知性の調和を保ち、良識に基づいた思考と判断力を修得していること。
2. 現代に鋭敏な、また未来を見通す論理を超えた直観力を発揮できること。

技能・表現

1. デザイン、プロデュースの専門分野における基本的方法と技術についての知識、能力を修得していること。
2. 思考内容や表現内容を論理的にプレゼンテーションする技術と能力を修得していること。

知識・理解

1. 文化、芸術、政治、経済、科学など人間活動の広範な分野についてグローバルな知識を持っていること。
2. 物事について、他者の立場に立って考え社会貢献につながる倫理的公共的理解ができること。

【文化デザイン学科のカリキュラム編成上の特色】

文化デザイン学科では、「感じとる力科目群」「かたちにする力科目群」「つなぐ力科目群」の３つの領域を設置し、まずそれら全ての領域をまんべんなく学ぶことを求めるカリキュラム編成となっています。それを基礎にして、人間の文化的・芸術的成果を社会につなげるシステムやプログラムをデザイン／構想し、創造し、実行／プロデュースするため知識と能力を習得する専門科目群が設置され、加えて各系の学問的理論だけではなく、１年次から４年次までの「ゼミナール」あるいは「スタジオ」など実践的なタスクワークを重視するカリキュラム編成がなされています。

教育課程の根幹ともいえる「ゼミナール」については、１年次から必修として全教員の「ゼミナール」を履修し、年次毎に研究テーマを絞り込みながら、最終的に４年次において一つのテーマに取り組むという４年間の段階的発展をたどる教育課程として編成されていることも特色です。

【総合社会学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

21世紀の課題は、『グローバル化』、『新ネット社会の登場』、『世界的な格差社会の拡大』、『自然環境の異変』などに象徴されます。

総合社会学部では、多様な視点から現代社会が直面する複雑な問題群を理解し、多様な見方を総合化していくために、人々の心的活動や行動（心理学）・社会システム（社会学）・環境と社会の関係（環境学）というミクロな視点からマクロな視点まで、視点の異なる学問分野を連携させた教育・研究により、複雑化した現代社会の問題群に一つの組織として総合的に取り組みます。

また、総合社会学部では、現代社会の諸課題をしっかりと見極めて、未曾有の転換期を生き抜く人材の養成にあたります。21世紀の社会は、情報社会・ネットワーク社会と呼ばれるものであり、それはインターネットに代表される情報通信技術の進展に大きく影響を受けて発展してきました。そこで、これからの社会を担う人材には、ネットワーク社会がどのようにもたらされ、どのような方向に向かっていくのかについて、的確に理解できることが求められます。

本学部では、現代社会が直面する複雑な問題を理解することができ、ミクロな視点からマクロな視点、ローカルな視点からグローバルな視点まで、多様な見方を総合化していくことができることを教

育の到達目標とし、複雑化する社会問題を総合的、実証的に捉え解決を図ることができる人材の養成を学部全体としてめざしていきます。

【総合社会学科の学修・教育目標】

総合社会学科は、教育・研究の連携を保つために、１学科組織となっていますが、系統性のある学修を行う必要性から、教育の柱となる領域を定めています。学生が自分の興味がある科目のみを履修し、学部・学科の科目を自由に修得する教育課程では、広く浅い知識だけで問題の表層だけしか見ず、問題の本質を知るという力は育ちません。

そこで本学部は、より深く系統性のある学修を行うために、

①現代社会そのものの構造や動きを研究するための、社会学をベースとした『社会・マスメディア系専攻』

②現代社会を構成する主体である、人間の心的活動や行動を探求するための、心理学をベースとした『心理系専攻』

③現代社会を取り巻く環境と社会との関係を研究するための、環境学・地理学・都市学・地域学・政策学をベースとした『環境・まちづくり系専攻』

という３つの体系的な教育課程を専攻別に編成し、個別重点的、かつ分野横断的に教育することにより、多様な見方を総合化して問題の本質を見抜く確かな学力を養成していきます。

【総合社会学科カリキュラム編成上の特色】

総合社会学科の教育課程は、「共通教養科目」、「外国語科目」と本学部独自の「学部共通コア科目」により、本学部生の土台を形成し、その土台の上に連続して「専門科目」を専攻別に基礎から発展へと編成することにより教育課程の体系性を確保しています。

「共通教養科目」では、幅広い知識と社会人としての基礎力を養い、「外国語科目」ではコミュニケーション能力の育成とともにグローバルな視点をも養成していきます。そして、「共通教養科目」である１年次必修科目の「近大ゼミ」に始まり、『学部共通コア科目』としての「総合社会学演習」、さらに各専攻に分かれても４年間一貫してゼミナール形式の少人数教育を施す「講読」、「演習」、「卒業論文」、「卒業制作」といった科目を必修科目として段階的・連続的に編成しています。このうち、どの専攻に所属しようとも必ず受講する『学部共通コア科目』では、学際的な学部としての総合的、実証的な視点や、人々の心的活動や行動（心理）・社会システム（社会）・環境と社会の関係（環境）といったミクロな視点からマクロな視点まで、異なる３つの視点を持つ各専攻の専門科目の基盤となる科目を編成し、「専門基礎科目」へと体系的につながっています。そして、学部教育の土台から連続して、学生の教育の柱となる領域を定めるため、「専門基礎科目」から「専門発展科目」へと体系的な教育課程を編成しています。

【その他の特色】

外国語科目（英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語）は、共通教養科目や専門科目の「国際関係」科目と同様に、総合社会学部の目的の一つであるグローバルな視点を養成するために重点を置く科目群です。本学部の外国語学修プログラムでは、提供するすべての外国語科目において基幹科目と発展科目を配置し、学生は基礎から上級レベルまで段階的に外国語学修に取り組むことができます。また、複数の外国語を学修できる環境を１年次から提供し、それぞれの進路・希望に応じて系統性のある学修が行えるプログラムとなっています。学生は、興味・関心の拡がりに合わせた科目の選択も可能です。外国語科目として18単位が卒業要件となっていますが、グローバル社会における英語の重要性に鑑み、英語のコア科目のうち必修科目６単位を含む８単位以上を修得する必要があります。これらの科目を通して基礎的な英語コミュニケーション能力を育成します。高度なレベルの英語運用能力の習得を希望する学生には、英語科目の重点的な履修も可能としており、マッコーリー大学（オーストラリア）へのセメスター留学制度の利用、上級レベルの英語の授業履修等の機会が充実しています。また、英語・中国語・韓国語については、単位認定を含めた短期海外語学研修に参加することもできます。

【国際学部　国際学科の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

「国際学部　国際学科」は、未来志向の「実学教育と人格の陶冶」という本学の建学の精神を人材養成の礎とした上で、グローバル化というかつてないほど大きな社会の転換期を生き抜き、積極的にグローバル社会に参画するための知識と教養の吸収を目的とした教育を行います。具体的には、（１）外国語による高いコミュニケーション能力を有し、（２）幅広い教養と専門性を備え、（３）自文化と他

文化を尊重し、かつ多面的に理解し、(４)自主性と協調性を持って行動できる人材、すなわち「国際教養人」の育成を目的とします。この教育理念を具現化するには、従来の座学的教育にはおのずと限界があります。よって本学部では１年次後期から１年間の留学を原則必修とし、大学生活早期の外国語コミュニケーション能力の習得、自文化・他文化の尊重と理解、自主性と協調性の涵養、の３つの目標の実現を目指します。さらに留学後に幅広い教養と専門性を深めることによって、グローバル社会で活躍できる人材の輩出という目的の実現を目指します。

【国際学科の学修・教育目標】

国際学部は、教育及び研究の連携を保つために、１学科組織となっていますが、留学を基盤とした確固たる言語運用能力の上で学修を行う必要性から、英語を専修言語とする「グローバル専攻」、中国語及び韓国語を専修言語とする「東アジア専攻」という２つの柱を定めます。

グローバル専攻は英語を主軸としますが、単に英語を学ぶに留まらず、「英語で何を学ぶか」に重点を置きます。そのために、以下の４つの「領域」を設けたうえで、多様な研究実績とキャリアを有した教員の専門性を活用した、効果的な教育の機会を提供します。

１　「コミュニケーション・実践領域」の科目は、実務の現場で活用可能なスキル・コミュニケーション能力を身につけることを目標とします。ビジネス、英語教育、観光、通訳・翻訳など、多様な実務・教育経験を持つ教員による開講科目を通じて、グローバル化に伴うコミュニケーション様式の変容や文化的多様性を意識した、実践的な問題意識と能力の習得を追求します。

２　「言語文化領域」の科目は、言語を理論的側面と現象面から分析し、言語と文化の関連性を深く理解することで、話者の多様な言語観とコミュニケーションスタイルの多様性を理解することを学修・教育目標とします。言語学、社会心理学、文化記号論などを研究する教員が、言語をさまざまな視点からとらえ、言語と人のかかわりを探求する科目を担当します。

３　「国際関係領域」の科目は、多様な人々が共に生きる社会の構築に向けて、積極的に行動できる力を養うことを目的とします。政治、外交、国際関係、国際法、地域研究、国際協力、ジャーナリズムなどを専門とする教員が担当する科目を通じて、国際社会や地域社会に貢献し得るグローバルな見識と行動力を習得することを目指します。

４　「人文社会領域」の科目は、グローバル化がもたらしたひと・モノ・文化の移動に目を向け、現代社会に刻み込まれたグローバル化のあり方を、複数の学問的視点から具体的に検討することを目的とします。歴史学、文学研究、芸術学、文化人類学、メディア論などを専門とする教員の開講科目を通じて、複雑な文化事象を粘り強く思考する経験を重ねながら、実社会にも貢献できる思考力や問題解決力の習得を目指します。

「東アジア専攻」は、中国語を専修言語とする「中国語コース」及び韓国語を専修言語とする「韓国語コース」を設置し、それぞれの言語・文化の理解を基盤に専門性を深めます。「中国語コース」では、中国語圏の人々と中国語で自在にコミュニケーションのとれる能力を高め、異なる価値観に対する寛容と自己の文化的立場の認識を深め客観化を図るべく、語学学修と並行して、中国語圏の文化、歴史、慣習、思考様式に関する知識及び日中の過去現在にわたる文化的交流の知識を得ることを学修・教育目標とします。「韓国語コース」では、韓国語でコミュニケーションのとれる能力を涵養し、韓国の文化、歴史、思考様式、社会構造を学ぶことにより、日韓のさまざまな交流に貢献できる地域専門性を身につけることを学修・教育目標とします。

以上のように、英語を専修言語とする「グローバル専攻」と中国語及び韓国語を専修言語とする「東アジア専攻」の２本の柱を持ちますが、分野横断的な学修が可能であり、多様性の理解と尊重のもと、さまざまな問題の本質を見抜く確かな学力を養成していきます。

【国際学科のカリキュラム編成上の特色】

「国際学科」の教育課程は、全学共通科目である「共通教養科目」及び「外国語科目」により学修の基礎を形成し、「専門科目」を段階的に編成することにより教育課程の体系性を確保しています。

「共通教養科目」では、１年次必修科目の「近大ゼミ」に始まり、(１)人間性・社会性科目群、(２)地域性・国際性科目群、(３)課題設定・問題解決科目群、(４)スポーツ・表現活動科目群から偏向なく履修することにより、幅広い知識と社会人に求められる基礎能力を養います。「外国語科目」について、グローバル専攻では、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語、タイ語、ベトナム語をそれぞれ入門、基礎、中級、上級の４レベルで開講し、学生の学修目標やキャリアの必要性に応じて主体的に選択ができます。また、東アジア専攻では、これら７言語（ただし、専修言語を除く。）

に加えて英語も選択でき、「総合英語１」、「総合英語２」、「総合英語３」、「総合英語４」と４レベルで英語の運用力を強化していきます。

専門科目は、「国際教養人の育成」という目的を達成するべく教育課程を編成し、それは「学部共通開講科目」、「留学科目」、「セミナー科目」、「言語科目」、「専門基礎科目」（グローバル専攻のみ）、「専門発展科目」から構成されます。

「学部共通開講科目」は、所属する専攻を問わず、履修の必要性が高い科目を配当しています。１年次前期の必修科目「留学セミナー」、「異文化理解」は、１年次後期から１年間留学する学生にとって必要な知識を身につける科目です。また、２年次前期の「専門導入セミナー」は、留学で得た高い外国語運用能力と国際感覚を、２年次後期以降の専門科目群へと接続するための役割を担います。加えて、「学部共通開講科目」には、２年次後期からの選択科目として、学生のキャリアパスに関わる内容を扱う科目を配置しています。

「留学科目」は、各専修言語の海外提携校で履修する科目です。１年次前期の必修科目「留学セミナー」、「異文化理解」に加え、集中語学学修で培った知識・技能を１年間の留学で確認し、さらに高めます。

「セミナー科目」は、３年次前期から卒業までの期間を通して、少人数でのリサーチ・プロジェクトを進めていく科目です。３年次の「セミナー１」と「セミナー２」を通じて、指導教員のアドバイスのもとでそれぞれの研究分野の基礎的研究方法と問題意識を深化させ、４年次の「セミナー３」と「セミナー４」で研究成果を論文等の形にまとめていきます。大学院進学等を視野に入れたハイレベルな論文指導が求められる場合は、後述する「専門発展科目」に配置された論文指導科目「Ｔｈｅｓｉｓ　Ｗｒｉｔｉｎｇ」をセミナー科目に接続し、より密度の高い論文指導を行うことが可能です。

「言語科目」は本学部の背骨となる科目で、グローバル専攻では英語を、東アジア専攻では中国語又は韓国語を指します。「言語科目」学修の目的は、実践的運用能力を身につけることだけでなく、「セミナー科目」などでの研究の基盤とすることにあります。

「専門基礎科目」は「グローバル専攻」にのみ設置する科目です。留学修了後、上述した４つの「領域」の中から自分に合った分野を選択し、該当分野の基礎的な知識と方法論を習得するための導入科目群で、これらの科目をバランスよく履修することを通じて、それぞれの「領域」の特徴を知ることができます。

「専門発展科目（グローバル専攻）」は、２年次までに習得した知識・技能・経験を基盤にして、より専門性の高い学修を行うための科目であり、「コミュニケーション・実践領域」、「言語文化領域」、「国際関係領域」、「人文社会領域」の４つの領域から構成されます。履修者は、これらの領域のいずれかひとつを選択し、専門分野の学修を進めていきますが、複数の領域を横断した履修を行うことが可能です。また、履修者の希望に応じて一層密度の高い専門教育を実現するために、それぞれの領域には少人数の特論科目を設置しているほか、上述した論文指導科目「Ｔｈｅｓｉｓ　Ｗｒｉｔｉｎｇ」を活用することで、レベルの面でも柔軟な科目選択・指導体制を実現することが可能です。

英語に比べ、中国語及び韓国語の習得期間は短いため、「専門発展科目（東アジア専攻）」ではグローバル専攻にあるような「領域」は設けることはせず、その代わりに専修言語習得をさらに強化し、学生自らの関心や進路希望に基づいて選択した履修モデルに従い、体系的に科目を選択し、履修していきます。

【その他の特色】

「国際学科」は文化の多様性だけでなく、垣根を越えた学問の多様性（ａｃａｄｅｍｉｃ　ｄｉｖｅｒｓｉｔｙ）も重んじます。学生は各自の専攻の中で「領域」（グローバル専攻）又は「コース」（東アジア専攻）に所属し所定の科目を履修しますが、学問の興味、又はキャリア面での技能にとって必要であれば学問横断的に科目を履修することができます。

また「国際学科」は、コミュニケーション能力のさらなる育成のために、１年次後期から１年間の留学に加え、他言語習得のための短期海外語学研修や海外インターンシップを奨励し、また有資格者には交換留学など、さらなる留学機会を提供します。

【情報学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

情報学部では、「Ｓｏｃｉｅｔｙ5.0の実現に向けて第４次産業革命（ＩｏＴ・ビッグデータ・ＡＩ等）が進展する中、ＡＩ活用やデータ分析、サイバーセキュリティ対策、社会システムのデザインなど、第４次産業革命の進展に伴って広がってきている社会のニーズに応える情報技術者を育成する」

ことを教育理念・目標とします。
　教育の理念・目標の実現のため、ＩｏＴ、ＡＩ、クラウドコンピューティングなど最新の技術を取り入れた実習科目と、それらの基礎となる概念を扱う情報学の専門的な知識を得るための講義科目をバランス良く配置し、数学や人工知能、機械学習といった現代の情報技術を支える数理的基礎を理解するための基礎学力に加え、情報技術を組み合わせてシステムを構築するための実践的な知識と応用力を習得させます。
　情報学部では４年間のカリキュラムを通じて、社会のニーズに応える情報技術者としてふさわしい問題発見能力、制約の中で他者と協調しながら問題を解決する能力、情報分野における幅広い専門技術の知識とそれらを問題解決に応用できる能力、システム構想・設計力、プログラミング能力に加え、国際的に通用する英語コミュニケーション能力と技術者倫理を身つけた人材を育成します。
【情報学科の学修・教育目標】
　情報学部の教育理念・目的を具体化するために、以下の到達目標を設定しています。
1. 問題発見、およびそれに必要な知識修得を自主的、継続的に行う意欲を持つこと。
2. 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者がそれらに対して負う責任を理解し、関心を持つこと。
3. 地球的視点から多面的に物事を考える能力と素養を身につけること。
4. 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を身につけていること。
5. 他人との共同、協調作業を通して問題解決ができること。
6. 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力を身につけていること。
7. 国際的に通用する英語コミュニケーション能力を身につけていること。
8. 数学、自然科学に関する知識を情報分野の問題に応用できる能力を身につけていること。
9. 情報分野における幅広い専門技術の知識とそれらを問題解決に応用できる能力を身につけていること。
10. システム管理・運用能力、システム構想・設計力、プログラミング能力を身につけていること。
　社会の広い分野で活用できる情報技術者に必要な基礎学力に加え、情報技術を組み合わせてシステムを構築するための実践的な知識と応用力を身につけてもらうことが学修・教育目標となります。
【情報学科のカリキュラム編成上の特色】
　高度な専門教育を体系的かつ組織的に行うとともに、学生が情報学に関する幅広い分野の中から系統的に学べるよう、「知能システム」、「サイバーセキュリティ」、「実世界コンピューティング」の３コースを設置します。また、学生が他コース開講科目を履修できるようにすることで、自身の興味やキャリアプランに合わせて情報学を横断的に幅広く学べるようにします。３つのコースはいずれも「Ｓｏｃｉｅｔｙ　5.0」の根幹となる、サイバー空間と実世界を高度に融合させたシステムの運用や開発に従事するＩＣＴ技術者を養成するためのコースとなります。それぞれのコースでは、サイバー空間に蓄積する大規模データの利活用や、そのセキュアな流通、また、サイバー空間と実世界との橋渡しに関する技術を扱い、社会のニーズに即した人材の養成のためのカリキュラム編成を特色とします。
　知能システムコースでは、サイバー空間に蓄積された膨大なデータを解析し、人々の生活をより便利にする情報を提供する社会インフラやデータ利活用システムを構築できる人材を育成します。本コースは、講義科目と実践的な実習の相乗効果によって、人工知能・機械学習の背後にある数理的な基礎を理解した上で、世界で繰り広げられている研究開発競争の最新動向をキャッチアップし、目前の課題に適した技術を適用できる人材養成のためのカリキュラム編成を特色とします。サイバーセキュリティコースでは、サイバー空間に大規模データを収集し利活用するための安全な情報基盤を構築するＩＣＴアーキテクトや、高度化するサイバー攻撃に対処できる情報セキュリティ人材を育成します。本コースの科目群はサイバーセキュリティ分野の国家資格である「情報処理安全確保支援士」で必要とされる知識の一部を習得する構成となっています。また、仮想ネットワーク環境等を用いた実践的なサイバーセキュリティ実習により、知識だけでなく実践的なスキルを併せもった人材養成のためのカリキュラム編成を特色とします。
　実世界コンピューティングコースでは、実世界とサイバー空間を橋渡し、ＩｏＴ、ＡＩ、及びシステムとユーザの相互作用に関する人間中心のシステム設計を高度に統合して、実世界で新たなサービ

スやイノベーションを創出できる人材を育成します。本コースは、認知科学や社会学の観点から、サイバー空間の解析結果により実世界のユーザの行動がどのように変容するか分析・評価し、実世界の問題を解決するシステムを構築できる人材養成のためのカリキュラム編成を特色とします。
【その他の特色】
情報学部では、基本情報技術者、応用情報技術者、シスコ技術者認定資格、情報処理安全確保支援士などの資格の取得を考慮した教育を実施します。できるだけ多くの資格を在学中に取得できるよう、支援体制を整えています。また情報学部では、実践による学びを通じて、学生が活きた知識を獲得できるよう、様々な企業と連携した産学連携で課題解決を図る企業連携型プロジェクト型学修を取り入れた実習科目を配置し、様々な制約の中で試行錯誤することで、より良い解決策を探る実践を通じ、専門職業人に必要な自主性、問題発見能力、問題解決能力を涵養します。
【農学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】
農学部では、本学の建学の精神と教育の目的に沿って、「積極的なチャレンジ精神を持ち、心豊かで社会に貢献できる人材を育成する」ことを教育理念としています。
農学は、生物生産、生命、環境等に関する体系的知識を核とした総合科学であり、その研究領域は、農業生産を中心とする食料生産に関する研究にとどまらず、農林水産物の二次、三次加工、健康、機能性食品の開発、医薬品への活用など人間の健康維持に関する研究、更には地球環境、地域環境、住環境を含む環境保全、管理、改善に関する研究など人間生活の衣、食、住のすべてを包括した範囲にまで拡大しています。このような背景を踏まえて、農学部では、社会的ニーズに対応した専門的知識と技術が修得でき、将来、暮らしに役立つ未来の技術の開発に積極的に取り組むことができるよう、講義科目と実験、実習、演習などの科目を有機的に連動させ、論理的並びに実践的側面を両立させる手法を取り入れた教育を行います。また、自ら問題を見出し、それを解決できる能力を高めることによって生命現象や地球環境などに対する深い理解を示し、豊かな倫理性・人間性を養うことにも取り組みます。地球レベルから分子レベルまでの幅広く展開する教育研究に加え、語学力やコミュニケーション力を高める教育を行い、グローバルな視野を持った実践的な人材を社会に送り出すことを目指します。
【農業生産科学科の学修・教育目標】
農業生産科学科では、「安全・安心な農業生産、食料問題、環境問題、生物のいやし効果、およびアグリビジネスに関する知識を持ち、それらに関する問題を解決するための方法論や技術を修得するとともに、その力を応用し、新たに直面する可能性のある未知なる問題にも果敢に挑戦する人材を育成する」ことを教育目標としています。
農業生産の分野では「環境と健康に配慮した21世紀型農業の確立」が求められており、理論と実践の両面から教育・研究を進めることが必要です。具体的には生物多様性の保全と利用を念頭に置いた安全・安心な環境保全型農業、花など生物のいやし機能の利用、これからの農業を発展させるためのアグリビジネスへの展開を目的としています。
この目的のため農業生産科学科では、安全性に配慮した食料生産技術、病害虫や生理障害に対する管理技術、収穫物の流通・販売・消費に関する問題、などについて基礎から応用まで知識を習得できる講義を実施しています。また、実験や実習にも多くの時間を割り当てることにより、実践能力をもつ人材を育成することも教育目標としています。
【農業生産科学科のカリキュラム編成上の特色】
農業生産科学科の専門科目は、１年次から開講されており、４年次の卒業研究まで一貫して農業生産科学に関する専門性の高い知識の教育を展開しています。また、アグリビジネスマイスター資格取得の制度を設け、ビジネスモデルの構想能力や地域産業とのコーディネート能力を有する人材の育成に取り組んでいます。
１年次では、農業生産の基礎となる生物学、植物学、植物保護に関する基礎的な科目を学修します。また、実践的に農業生産科学を理解するための農学野外実習を実施し、実学的に理解するとともに農業生産科学に取り組む心構えを養っています。
２年次では、学科を構成する各研究室の専門分野に関連する専門科目が開講されます。農業生産に関わる植物に関する植物の種類ごとの専門科目、栽培植物の保護に関する種々の病害虫や農薬利用に関する科目、アグリビジネスマイスターのコースに関連する種々の科目が開講されています。また実験科目として、農業生産科学に関係する幅広い基礎的な内容を実践的に理解するため、基礎生物学実

験及び基礎化学実験を実施しています。
３年次では、１年及び２年次で修得した基礎知識をもとに、それぞれの専門分野でより高度な内容を含む専門性の高い科目を修得できるように講義科目を開講しています。さらに各専門分野に関する英語力を身につけるため、ゼミ形式の専門英語を開講しています。これらの専門的内容を実践的に理解し、４年次の卒業研究に必要な実験手法や機器の取り扱いについて、直接的な指導が受けられる農学専門実験を通年で実施しています。またアグリビジネスマイスターのコースではアグリビジネス実習を開講しています。
４年次では、３年次までに修得した知識や実験手法を活用して卒業研究に取り組み、同時にゼミ形式の専門演習において研究における問題解決能力を向上させます。すなわち、１年から３年次までに修得した知識や技術を十分に活用して卒業研究を完成させるカリキュラム構成になっています。
【その他の特色】
農業生産科学科では、農業生産に関する基礎教育を基盤として、応用的な専門教育を広く学べることを特色にしています。分子生物学を応用した遺伝子工学技術、植物組織培養技術を利用した苗生産技術を習得できます。また実学的な分野では、交配による育種技術、減農薬栽培のための物理的、生物的病害虫防除技術を体験・習得できます。収穫物の流通については、トレーサビリティーを含む流通管理技術や野菜や果実の保存の現場を体験することができます。さらに、附属農場実習として、マンゴーやミカンの栽培、収穫、販売を体験することができます。また、近隣の農業研究センターの見学も定期的に実施しています。
【水産学科の学修・教育目標】
水産学科では、「地球的視野から水域の食料生産と環境・生物について多面的に考える能力を持った人材を育成する」ことを教育目標としています。
海に囲まれた日本において、水産業は極めて重要な産業であり、時代を通じて高い発展を図る必要があります。農学部水産学科では、自然と調和した水産学を志向し、増養殖、漁業、水産物加工・流通業などの水域の食料生産に関わる分野から、水産業に密接に関わる水域生態系の評価・保護・改善・修復・共生などの環境保全まで、幅広い水に関わる分野の教育をおこないます。
具体的には、下記に示す内容を学修・教育の目標としており、水産学科のカリキュラムは、ここに示すＡ群からＨ群までの８つの柱に沿って、それぞれの基礎から専門性の高い内容まで、確実に学修できるよう配当しています。

Ａ群　科学知識の基礎を習得し、様々な生命活動を理解する
Ｂ群　水域における多様な食料生産システムを地球的視野から理解し、応用できる
Ｃ群　水域の環境保全の重要性を生物・環境の両面から認識し、多面的に考える
Ｄ群　世界における水産資源の利用方法を修得し、その流通を含む食料問題への対応力を養う
Ｅ群　学内外の諸施設を利用した実験・実習・見学により実践力を修得する
Ｆ群　水産技術者として必要な世界観・倫理観を身につける
Ｇ群　水産技術者として必要な論理的記述力、口頭発表力、コミュニケーション力を身につける
Ｈ群　水産技術者として必要なデザイン能力・自主性・計画的遂行力を身につける

【水産学科のカリキュラム編成上の特色】
農学部のカリキュラムは、学部共通である共通教養科目・専門基礎科目・外国語科目、そして学科ごとの専門科目から構成されています。
水産学科の専門科目は学修・教育目標に定めたＡ群からＨ群の項目を系統的に学修できるよう、それぞれ目標に沿ってＡからＨまでの内容別に科目が配当されています。例えば、Ａ群Ｉ（生命科学系）では、『魚類生態学』や『魚類環境生理学』といった水域の生物学に関する基礎から専門性の高い内容まで合計13科目が開講され、学生はそれらの中から自分が興味を持つ６科目以上を選択することになっています。
また、実学である水産学を机上の学問とするのではなく、必ず現場における実践を意識するため、実験室レベルにおけるカリキュラムに加えて、養殖魚の生産・水産物の製造・流通などを体験・見学します。そのため、Ｅ群（学内外の諸施設を利用した実験・実習・見学により実践力を修得する）では多くの実験、実習科目が選択科目として開講されています。その例として、白浜実験場で実施する『養殖学基礎実習』や『水族環境学実験』などがあります。さらに『潜水技術論』や『小型船舶操縦

法』といった、将来に向けたキャリア形成のための資格取得が可能な選択科目も開講されています。
【その他の特色】
水産学科発足時にその母体となった近畿大学水産研究所は、和歌山県に白浜実験場や浦神実験場など４カ所、また富山県と鹿児島県にも各１カ所の実験場を持ち、我が国で現在行われている魚類養殖方法の多くを開発したフロンティア的存在です。水産学科の授業においても、水産研究所のフィールドや実験施設、宿泊施設を利用した多くの実験、実習科目を開講しています。このように大規模な飼育施設を備えた実験施設は、我が国は元より世界的にも類を見ず、学生達は恵まれた環境で実践的な教育を受けることが可能です。
【応用生命化学科の学修・教育目標】
応用生命化学科では、「生物を化学的視点から理解し、豊かな未来を創造できる人材を育成する」ことを教育目標としています。
本学科では、化学の立場からライフサイエンスの知識と技術を習得し、食料・生命・環境の分野で発生する「様々な課題を解決できる能力」を身につけ、より良い社会生活の実現に貢献できる技術者・研究者の育成を行い、国際的に活躍できる人材の養成を目的としています。
したがって、基礎学力から応用研究を行う実践的な能力までを確実に４年間で習得できるように講義を実施するとともに、実験や演習の時間を豊富に設け、知識・技術を確実に身につけることができるように配慮しています。また、これらの技術者に必要な情報処理や英語力の養成にも力を注いでいます。
これから深刻になる食料・環境問題に対処するため、化学と生物学の基礎を体得した実践的な技術者がますます必要になっています。応用生命化学科では人間生活の質の向上のため、食料、生命、環境を化学的な視点から解明し応用へと導き、未利用資源の利用と再生に関する教育、研究を行います。そのため、生命現象を化学的に理解し、高度な先進的技術を習得させ、基礎から応用まで幅広く学べることを特徴としています。
【応用生命化学科のカリキュラム編成上の特色】
応用生命化学科では、１年次から全学年にわたって専門科目が配されており、学生は入学してから卒業するまで綿密に計画された一貫教育を受けることになります。
１年次では、主に専門科目を受ける上で必要となる基礎科目、語学能力の習得を目的とした科目ならびに「物理学実験」、「生物学実験Ⅰ」が配されています。
２年次からは、１年次で学んだ知識を基盤として化学系の専門科目、生物系の専門科目及び「化学実験Ⅰ」、「化学実験Ⅱ」、「生物学実験Ⅱ」、「生物学実験Ⅲ」が配置されています。また、ゼミ形式で少人数の専門英語の授業も始まります。
３年次では、専門科目の要素も濃くなり、また研究室への配属も決まり専門科目実験が配置されています。専門英語については興味ある英語の論文を読ませ、この内容を要約して各人が発表するカリキュラムも配置されています。これらは「卒業研究」や卒業後社会で通用するためのより実践的な知識を身につけるためです。
４年次では、「専門演習」と「卒業研究」を配し、学術的な研究を先生の的確な指導と、大学院生のサポートのもとに行います。英語の論文も積極的に読ませるようにし、未知の分野を研究することで、これまで学んだ専門知識や技術を遺憾なく発揮し、自力で問題を解決する訓練を行います。これによって、多くの困難を自分の力で解決できる専門職業人としての力を身につけることができます。
【その他の特色】
応用生命化学科では、実学教育にも力を注ぐ観点から、2006年に学科独自で酒造免許を取得しました。これにより、２年次以降の学生実験では清酒やワイン、ビールの試醸実験、食用きのこ類の栽培実験、乳酸発酵によるヨーグルト、納豆菌による納豆の試作などを取り入れ、ものづくりの楽しさと、生物・微生物の行う発酵や形態形成の機能とその化学的なメカニズムの解明を行っています。
【食品栄養学科の学修・教育目標】
食品栄養学科では、「人間の基本要素である食、栄養、健康に関する多様な問題に取り組み、人々の生活を豊かにできる人材を育成する」ことを教育目標としています。
超高齢社会に入り、生活習慣病が大きな社会問題となっております。生活習慣病を予防し、健康寿命を延ばすための施策がとられていますが、この計画で指導的な活躍が期待されているのが管理栄養士です。そのためには、より高度な専門知識と技術を習得した資質の高い管理栄養士の養成が求めら

れています。食品栄養学科では、学内に医学部・薬学部を併設する数少ない管理栄養士養成施設として、特色ある実践教育を展開しています。医療、保健、教育、福祉などの現場で独自に高度な対人栄養指導ができ、病院などでは医師をはじめ専門スタッフと共に医療チームを構成して栄養管理ができる管理栄養士を養成することを目標としています。

【食品栄養学科のカリキュラム編成上の特色】

カリキュラムは基礎から専門へと積み上げ方式で編成されています。本学科のカリキュラムと教育の特色を下記に示します。

1　臨床分野を強化したカリキュラム
解剖学、生理学、栄養学等に関わる基礎科目、現場での臨床・カウンセリング系科目及び医学部・病院での実習科目を多く取り入れたカリキュラムを設定。

2　総合大学のメリットを最大限に活かした教育支援体制
医学部・病院、薬学部等との連携で医学・医療・健康面の基礎から実践的な教育を実施。

3　学内２病院（近畿大学病院、近畿大学奈良病院）での充実した実習
３年次では臨床栄養学実習Ⅱ（一日病院実習）を、４年次では臨地実習Ⅱ・Ⅲ・Ⅵを行っています。

4　研究能力・情報収集能力育成の強化
資格取得だけでなく、研究やプレゼンテーションの能力も合わせもった管理栄養士を養成するため卒業研究や演習を設定、特に自主的に学び、問題解決能力を高めるための演習を充実。

5　国家試験対策講座
管理栄養士になるためには「管理栄養士国家試験」に合格しなければなりません。卒業生全員の国家試験合格を目指して３年次から模擬試験を実施し、４年次には特別講義で国家試験対策と実力の強化を図るとともに、個別指導も行っています。

6　少人数教育
本学科の学生は目的意識が明確であり、その上に実験・実習は１クラスおおむね40人単位で行なっているので、学生は極めて緊張感のある状況下で受講できます。

【その他の特色】

1　職域に対応した多様な資格取得が可能なカリキュラムを用意しています。
（例）栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員

2　より高度な管理栄養士を目指す者は、本学農学研究科や他大学大学院に進学しており、修士や博士の学位をもった管理栄養士を養成します。

3　学外実習では社会人としての振る舞いが要求されます。礼儀作法は、管理栄養士養成において重要な教育の１つであります。日常生活における基本的な礼儀作法と正しい言葉使いを身につけることにも注意を払っています。その大切さを認識させるために各職域の現場の管理栄養士の生の声を聴くことができる講演会なども実施しています。

4　管理栄養士は、対人栄養指導を行います。そのためには、相手を思いやるこころ、自身の品格を高めることも大切です。調理学実習・総合演習の一環として、西洋料理（１年次）、日本料理（４年次）の本格的な食事の食事作法をレストランや料亭の専門家から学ぶことも行っています。

【環境管理学科の学修・教育目標】

環境管理学科では、「グローバルな視点から、人間と生態系の共生を目指した、環境マネージメント能力を有する人材を育成する」ことを教育目標としています。

環境をめぐる問題は分野や地域を超えた総合的な問題であり、その軽減・克服のためには、従来にも増して総合的な視野を持つ専門家の育成が求められています。このような時代の要請に応え、人類社会の持続的な発展に貢献するために､この環境管理学科が発足しました｡未来社会を創造する上で、あらゆる社会経済活動と自然環境との調和が不可欠です。本学科ではこの視点に立脚して、生物を指標とした環境や生態系の評価、その評価に基づく環境の保全と修復、資源の持続的な利用及びこれらを具体化するための政策立案にいたるまでの環境管理にかかわる一連の流れについて教育及び研究を行います。

環境管理学科の教育の特色は、環境管理に関する一連の知識を養うために、生態学を共通の基礎学問としつつ多様な専門分野の授業を行うとともに、問題解決のための手法を広く学ぶことができるように工夫している点にあります。１、２年次には、環境問題について広く学ぶとともに、生態系評価

のため、森林や動植物の調査方法について遺伝子レベルから景観レベルまで学びます。動植物をとりまく環境については、水圏や土壌圏における様々な物理条件の測定方法や化学分析手法について学びます。また、環境経済や環境関連の法律についても学ぶことができます。これらを組み合わせることで、環境の保全、修復、持続的な資源利用について提言できる人材の養成を目指します。理論だけでなく実践を重視しているため、１年次から４年次までを通した実験・実習では、キャンパス里山から沿岸環境までの多様なフィールド調査を行います。さらにワークショップなどによる社会調査演習を充実させているのも特徴です。知識の集積と野外での実体験の双方から、環境に関する情報収集力、ＧＩＳや統計ソフトを用いた解析技術、政策実践力の習得が可能です。環境問題は国際的な問題であるため、一部の講義、演習で導入する英語による授業や海外調査・研修、短期留学制度を活用して英語力を身につける機会も設けています。

このように、確かな知識と技術力を身に付けることによって、環境問題にかかわる技術者、研究者、政策担当者、企業人、ＮＰＯ等の関係者として国際的に活躍できる広い視野を持った人材を養成することを目標としています。

【環境管理学科のカリキュラム編成上の特色】

環境管理学科の専門科目は、１年次から４年次まで全学年にわたって配置されており、学生は入学してから卒業するまで綿密に検討された一貫教育を受けることができます。環境管理学科では、実験室における環境測定・評価技術やデータサイエンス手法の習得と、フィールドにおける観察や実習の双方を重視していることが特色です。なぜならば、環境問題は多岐にわたるレベルを包括しており、また一つの側面からだけでは解決できない問題だからです。

１年次では生態学や環境管理に関わる専門科目について広く学ぶとともに、後期には環境管理学基礎実験・実習Ⅰが行われ、近畿大学奈良キャンパスの里山を中心としたフィールドで環境測定技術の基礎を習得し、身近な生態系の仕組みや生物多様性の理解に努めています。

２年次では、水環境学、植物生態学、環境微生物学、森林管理学など、幅広い専門科目の選択肢の中から自分の興味に応じて講義を選択することができます。講義に加え環境管理学基礎実験・実習Ⅱを通して、さらに専門的な環境測定技術の習得に努めます。

３年次からは、水圏生態学、生態系保全、環境化学、森林資源学、国際開発・環境学、環境政策学、環境情報学の７研究室のいずれかに配属され、専門科目を学びながら研究室単位で開講される専門実験・実習の学びの中で卒業研究に向けた準備を開始します。また、研究を進めるために必要な英語力を培うため専門英語の授業も開始され、英語論文の読解や英語での発表などが行われます。

４年次では、学生生活４年間の集大成である卒業研究を中心に取り組みます。大学内の里山を含め、国内外を問わず学生一人一人がテーマを持って卒業研究を進めます。学生によっては卒業前に学会発表を行います。

奈良キャンパスの里山には、各種絶滅危惧生物をはじめ、多様な生物が生息しています。環境管理学科では、この里山環境を最大限に活用して卒業研究や実習に取り組んでいるのも大きな特色です。棚田の修復や里山林の下刈り、間伐等の実習により里山と人間社会との関係を深く理解するだけでなく、こうした体験や技術は海外での調査、研究、指導にも役立つことが実証されつつあります。キャンパス内に豊かな里山が存在することは、特に環境管理学科の教育、研究において多大な効果を与えています。

【その他の特色】

国際的な環境問題、食料問題の実情を体験することを目的として、「海外調査・研修」を実施しています。また、さまざまな環境問題の特性に対応できるよう、複数の教員による「環境管理学概論」を開講し、社会的な関心の強い問題や時代の先端を切り開くような先進的な取り組みを学びます。

【生物機能科学科の学修・教育研究目標】

生物機能科学科では、「未来を拓く最先端バイオ技術で、世界の食料、環境、アグリバイオ分野をリードする人材を育成する」ことを教育目標としています。

近年のバイオテクノロジーの進歩はとどまるところを知らず、日進月歩の勢いで新しい知見が生み出されています。その上、新しい技術や方法論が開発され、ＩＴやナノテクなどを始めとする工学的な技術革新も近年のバイオテクノロジーに大きな影響を及ぼしています。本学部生物機能科学科は、このようなバイオの世界の多次元の変化に対応しながら、国際的な競争力をもつ、最先端バイオサイエンス教育、研究を行う学科として設置されています。本学科では、生物科学の諸問題あるいは食料・

環境・生命といった問題を、幅広い視野に立って理解でき、独創的なフロンティア精神とリサーチマインドを兼ね備えた学生を養成します。また、最先端バイオサイエンスの基礎から農学への応用・実用化までを取り入れた一貫教育・研究システムにより、21世紀の日本バイオ産業を興隆し、実践的なバイオテクノロジー技術を習得した技術、研究者を養成します。新しい知見や技術をなるべく早い段階で導入していくために、他の先端技術研究機関との連携を強め、常に外に向かったオープンな特色をもつ学科として教育研究を行っています。さらに、自然科学的知識だけではなく、アグリバイオ技術の実用化に必要な社会的知識、バイオビジネスなどに関する教育、また英語能力の向上のための教育を強化し、地域産業のみならず世界に通用する人材の育成を目指します。

【生物機能科学科のカリキュラム編成上の特色】

１年次では、生物学基礎、化学基礎、物理学など、それぞれの学問分野を全体的に概観する科目を履修し、入学以前に該当科目を学んだ経験のない学生が、それ以降の専門科目を支障なく学修できるように準備します。基礎知識の修得は、細胞生物学、分子生物学、動物発生学、生物化学Ⅰ、植物生理学基礎、有機化学Ⅰなどの専門基礎科目から始まっていきます。これらの科目は、２年次以降に配されている展開科目を履修する上で欠かすことのできない基礎知識を提供するものとなっています。１年次に組み込まれている物理学実験及び生物有機化学実験の二つの実験科目も、これらの基礎知識を補足するものとして重要な科目です。さらに、少人数でのゼミ形式での授業（近大ゼミ）を実施し、双方向的な討議を通して、口頭発表や質疑応答の方法について習得します。

２年次からは本格的な専門的基礎知識の習得に力を注ぐことになります。まず、総合的な専門基礎知識を得ることを目的として、生物化学Ⅱ、有機化学Ⅱ、生体物理化学、分子遺伝学、動物発生学などの科目を修得します。実験科目としては、細胞工学実験及び遺伝子工学実験を通して基礎知識を深めていきます。さらに２年次後半からは、いよいよ専門知識の中にも応用的な側面がかなり含められるようになります。本学科は生命科学に関する最先端の知識や技術を学び、「医療」、「創薬」、「食料」、「エネルギー」などの分野から構成されており、それぞれの分野で特異的ないくつかの講義科目を準備しています。これらの科目は３年次後半に至るまで順次開講されていくことになります。各分野の研究に必要な実験技術は、バイオサイエンス専門実験Ⅰで２年次後半に学ぶことになります。

３年次には、バイオビジネス論、アグリバイオ実習の特徴的な科目が配されています。これらの科目は､生産業としてのバイオサイエンスを講義として､さらには野外にて学ぶことを旨としています。自然科学的知識だけでは、バイオサイエンス技術の実用化は不可能であり、それにふさわしい社会的知識をも修得させ、総合的な知識をもつバイオサイエンス技術者の養成に取り組みます。また、３年次からは上で述べた四つの分野の各研究室に正式に配属されることになり、バイオサイエンス専門実験Ⅱ及びⅢ（それぞれ１単位ずつ）を通して、各研究室ごとに専門的な技術を学んでいくことになります。各研究室への配属後は、専門英語Ⅰ、Ⅱ（３年次）や専門演習Ⅰ、Ⅱ（４年次）を通して、バイオサイエンス関連英語の理解力の向上が図られ、研究論文の読み方、書き方、さらにはプレゼンテーション能力の向上をも目指します。

４年次においては、各研究室に配属された学生に対して、卒業研究のテーマが割り当てられ、各学生が当該研究室の教員の指導の下に研究を遂行していくことになります。

【その他の特色】

３年次以降、特別講義を開講し、学内外の先端技術研究機関より講師を招聘し、最先端の研究成果や方法を学ぶ機会とします。また、本学科カリキュラムの中には、バイオサイエンス研究に必要なコンピュータ技術を学ぶ実習（バイオインフォマティクス演習）が組み込まれており、バイオサイエンス関連の実用英語やＩＴ関連技術も学べるように工夫しています。さらに、細胞（動物、植物、微生物）や哺乳類の受精卵の培養技術を習得させ、先端的バイオ関連機器を習熟させ、高度な研究の機会を学生に提供します。

【医学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

本学の建学の精神と教育の目的に沿って、医学部の教育研究の理念・目的を「人間性豊かで知識、技能に優れた医師を育成します。さらに研究や診療を通じ、医学の進歩に貢献し、豊かで健康な社会の創生に寄与する」としています。

医師は直接人命を預かる職業ゆえに、高度な専門知識や技術とともに、高い人間性と道徳的責任感が要求されます。診療には高度の医学的知識と医療技術の修得が要求されますが、高度に進歩し、情報量の極めて多くなった知識・技能は必要最低限を把握するだけでも至難であり、しかも現時点での

最新・最高の知識でも時間の経過とともに時代遅れになるのは必至であります。ここに医師を目指す者が基礎的な知識・技能の修得と同時に、自ら問題を解決する能力の養成が求められる理由があります。

【医学部の学修・教育目標】

上記医学部の理念・目的と現代社会の多様な期待に応えうるため、本学部の学修・教育目標として医師の養成、高度先進医療を提供する特定機能病院としての機能の維持、健康な社会の創生に寄与する医学研究者の育成を掲げています。

具体的な学修・教育目標を次に列挙します。

1　近畿大学医学部の社会的評価の向上。

（1）　社会が求め、学生が満足する教育を施行することにより、医師としての高い評価を得る卒業生を可及的多数送り出す。

（2）　基礎系教授懇談会や教授会の議論を多くして、また少人数制の責任指導教員の活動を通して、良き医師になるための全人的教育の機会を増やす。

（3）　小人数の学生を担当する指導教員制度を通じ学生の生活習慣を良好にし、自学自習の意識を高め、良き臨床医として社会で貢献出来る学生を輩出する。

（4）　本学卒業生のみならず他大学卒業生も可及的多く、本学部・病院の大学院生や研修医を希望するような教育・診療・研究実績を作る。

2　臨床実習の教育を充実させ、地域中核病院として、医療を社会に還元するため、高度先進医療を実施する。

3　教育・診療を十分に行いながら、ＣＯＥクラスの研究を育てる環境を作る。

【医学科カリキュラムの編成上の特色】

医学部は、本学の建学の精神と教育の目的に沿って、しかも「21世紀にあるべき医学部像」を探求し、先取している点が本学部の長所です。すなわち学生が自ら問題点を探し出し、解決する能力を養成すべく、ｅａｒｌｙ　ｅｘｐｏｓｕｒｅとして１年次では看護師とともに病棟での病院実習を行い、また２年次では外来患者さんのエスコートなどを中心とした外来実習や薬剤部などの病院部門において体験実習を行い、良き医師になるための動機付けを行っています。また、医学情報の飛躍的な増加に対応すべく、学生が主体的に問題意識をもって学修するテュートリアルやＴｅａｍ－Ｂａｓｅｄ Ｌｅａｒｎｉｎｇを医学教育全般に導入しているところは本学部の教育カリキュラムの長所です。

また、全人的教育を目指して、生命倫理やコミュニケーション、医療安全などプロフェッショナリズム教育を複数年にまたがり実施するところも本学部のカリキュラムの長所です。地域医療教育として１年次には学外施設実習、を実施しています。

具体的なカリキュラムは１年次の教養教育、準備教育を経て、１年次後期～６年次の医学専門教育に移行しますが、２年次では自律的に獲得する問題基盤型テュートリアルを中心として教育し、４～６年次で臨床の現場で患者さんの診療を基盤とした診療参加型臨床実習を行います。また、２～４年次に臨床実習入門のためのコースを設け、シミュレーションラボを活用しながらワークショップも取り入れ、臨床の場で役立つようカリキュラムを編成しています。その結果、

1　医師に必要な基礎的な知識・技能の修得

2　自ら問題を解決する積極的な学修態度の養成

3　広い学問的視野の育成

4　奉仕の心と協調精神の涵養

5　豊かな人間性と高邁な倫理観・責任感の養育

という５大教育目標に到達出来るよう、６年間に開講されている多くの授業科目に分散しつつ、最終的に臨床実習を通して体系化出来るカリキュラムとなっています。

【 看護学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

本学の建学の精神並びに教育の目的に則り、人々の生命・健康と尊厳を守り、その人らしい健やかな生活を支えるために、豊かな人間性と根拠に基づく確かな看護実践力を備え、多様な専門職との連携・協働により、人々の健康・福祉・幸福（well-being）に主体的に貢献できる看護専門職を育成します。このことを通して、看護学の進歩に貢献し、持続可能な社会の創生に寄与します。

【看護学科の学修・教育目標】

急速にかつ多様で複雑に変化する社会において、本学の建学の精神である「実学教育と人格の陶冶」

に基づき、人々の生命・健康と尊厳を守り、その人らしい健やかな生活を支える看護専門職を育成するために、以下のとおり教育目標を置き、教育研究と人材養成を通じて、持続可能な社会の創生に貢献することを目指します。

① 多様な文化・価値観を持つ人々の健康課題に対応できる。
② あらゆる健康レベル、多様な状況に対応できる。
③ より質の高い高度医療に対応できる。
④ より包括的・先見的な健康危機に対応できる。
⑤ 人々とともに創る地域に根差したケアを実践できる。
⑥ 社会に貢献できる専門職としての自己教育力を涵養する。

【看護学科カリキュラム編成上の特色】

豊かな人間性と確かな看護実践力を有し、地域の保健医療ニーズに精通した看護専門職の育成を図る。そのため、ディプロマ・ポリシーに基づき基礎科目から専門科目へと４年間で体系的な学修が可能となるよう、下記の特色をふまえたカリキュラム編成とします。

①多様性を持つ豊かな人間力を培うために、多様な価値や文化の理解を重視したジェンダーダイバーシティ及びインクルージョンに関する科目群を基礎並びに専門科目として配置する。
②看護の対象である人間を全人的に理解し、的確な臨床判断を行い、多様な状況において最適な看護実践を行う上で必要な看護学並びに関連分野の知と技を体系的に学び人々中心のケアを体現する実践力を養うことを目的として専門基礎科目群を「人体と環境の探究」「疾病と回復過程の探究」「健康と社会制度の探究」に分類し配置する。
③看護の基盤となる科目並びに看護専門科目を、１年次から楔形に配置し、早期より看護学を段階的に学修できるよう配置する。また、体験学習を重視し、１年次から地域密着型の実践学修を展開（医療イノベーション学、共創看護学、災害看護学等）する。
④対象に生じている現象に関心をもち、探索的に現象探究し、看護の知と技を社会に実装することを通して、社会の発展に資する姿勢や力を引き出すために、問題解決型教育や能動学修を取り入れ、論理的思考能力や科学的探究心の養成を図る専門科目を「基盤看護学」「地域・在宅看護学」「クリニカル看護学」「老年看護学」「精神看護学」「共創看護学」「看護の探究分野」として配置する。
⑤看護専門職として人々の多様な文化や環境を理解し、多様な人々と連携・協働して課題解決する能力を養うための科目を配置する。加えて、対話や討論を重視した学修及び多職種連携教育により、コミュニケーション力や調整する力を養う。さらに、１年次から地域密着型の学修を通して、多様な住民と連携・協働し、共に新たな状況を創生する力を養う。
⑥看護専門職としての自己を教育し続ける力を培うために、１年次から４年次まで継続的かつ段階的に講義・演習・実習を関連させながら倫理的思考を学べる「現代社会と倫理」「哲学と人間・社会」「看護倫理」などの科目を配置する。
⑦生涯にわたる自己研鑽を目指すために、プロフェッショナリズムやキャリアディベロップメントを形成する科目を配置する。また、「ボランティア論」「サービスラーニング」を選択科目として展開し、豊かな人間性、社会に貢献する力を育成する。

【生物理工学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

（１） 教育理念：

生物理工学部は、生物系と理工学系の伝統的な科学・技術に裏打ちされた学際的な先端学術分野に係わる未来志向の教育と研究を通じて、高度な専門能力、豊かな教養に基づく独創的な創造力、そして高い倫理観と自主独往の精神を兼ね備えた人格の陶冶を理念とし、地域及び国際社会との連携や人類社会の福祉と持続的発展に貢献できる人材の育成を目指します。

（２） 教育目的：

生物理工学部は、次に示す人材の育成を教育目的として、教育研究に邁進します。

１　生物学と理工学の融合的あるいは学際的研究を基盤に、人類の発展に貢献できる独創性と創造性を備えた人材
２　最先端の学問研究を果敢に追及し、21世紀の課題の解決を志す人材
３　社会や科学技術に対して高い倫理観を有する人材
４　自然との共存・共生を目指した持続的可能な人類社会の発展に貢献できる人材

５　実践的語学力を有し、国際的な視野と教養が涵養された人材
【生物工学科の学修・教育目標】
生物工学科では、人間をとりまく有用な生物、とくに植物や微生物を対象として、それらが示すさまざまな生命現象を、分子・細胞から個体・集団のレベルにわたる幅広い視点から理解するための教育を行い、生物学的手法に工学的手法を取り入れた、最新のバイオテクノロジーに対応できる技術者と研究者を育成するために、次の５項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。
１　特定の生物学的分野に関する深い知識はもちろん、情報処理やシステム制御などの工学的手法をもとりいれた分野横断的な視野をもつ人材を育成する。
２　人類にとっての最大課題である食糧増産、人間の医療や福祉への貢献、種々の環境問題に対する生物学的対処などの地球規模の重要な課題解決を志向する人材を育成する。
３　社会的観点から、生物工学的技術のあり方と価値を適切にとらえる能力を涵養する人材を育成する。
４　長期的かつグローバルな視野をもち、様々な状況に適応できる人材を育成する。
５　世界からの情報の収集および世界へ向けての発信などを遂行できる能力をもつ人材を育成する。
【生物工学科カリキュラム編成上の特色】
上記の目標達成にむけて、１年生ではまず生物に対する興味や関心を喚起するため、多様な分野における現状と展望を概括します。これに基づき、生物工学における共通した手法、基盤となる専門科目、さらに各種の実験や実習を、１～２年生より履修します。さらに専門性を深めるために、３年生から生物工学の幅広い分野をカバーする研究室へと分属し、専攻科目演習や４年生での卒業研究論文作成に臨みます。
本学科では、核酸・タンパク質等の生体物質の解析から生物生産技術開発・環境工学等にわたる、幅広い生命現象の分子的基礎およびその活用技術を学びます。このように、広い入り口から深い出口へと進むことのできるのが、本学科におけるカリキュラムの特色です。
【生物工学科の教育におけるその他の特色】
本学科を卒業した学生の約３割は、大学院へと進学し、専門的能力をさらに研鑽しています。主たる進学先である近畿大学大学院生物理工学研究科生物工学専攻は、平成14年度文部科学省「21世紀ＣＯＥプログラム」、平成19年度「大学院教育改革支援プログラム」に採択されています。
その他の進路としては、食品、医薬品関連企業や、種苗会社、農業協同組合などの農業生産関連分野等があげられます。
【食品安全工学科の学修・教育目標】
食品安全工学科では、「食」を科学的・工学的知見に基づいた概念で捉えた教育を行います。「食」を安全で機能的に優れたものにするための知識と技術を身に付け、それらを食産業社会に還元できる実践的な技術者と研究者を育成のために、次の５項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。
１　生命科学を基盤とした基礎的な教育研究から、生命工学を基盤とした応用化・実用化およびイノベーションの創出までを視野に入れた実学的な知識を身に付けた人材を育成する。
２　食に関する情報を科学的に評価して、工学的に応用できる人材を育成する。
３　食品の生産、加工、流通、保存過程の安全性や生産現場の環境保全など食全般の安全管理にエンジニアリングの視点から携わる人材を育成する。
４　食に関わる生理や機能解析を基に食品と人間の健康との関連付けを食品工業に応用できる人材を育成する。
５　食品産業の企業倫理と生命倫理を正しく理解し、責任を持って行動できる人材を育成する。
【食品安全工学科のカリキュラム編成上の特色】
食品産業の研究者・技術者、食品衛生関連の指導者・コミュニケーター、国・地方の行政官など食の安全の分野の専門家を育成するコースは、欧米の大学には見られるものの、アジア諸国を含めて世界的にその専門家は不足しています。食品安全工学科では、食品の生産、加工、流通、保存過程の安全性や生産現場の環境保全など食全般の安全管理にエンジニアリングの視点から携わる人材､および、食に関わる生理や機能解析を基に食品と人間の健康との関連付けを食品工業に応用できる人材の育成を目的としています。分野が広範囲にわたるため、カリキュラムは基幹専門科目を食品機能工学、食生産環境、食品管理評価、応用生命工学の４ブロックに分け、それぞれ年次が進むに従い、基礎から応用へとなるよう科目を配置し、無理なく知識を広め、深めることができるようにしています。専門

科目には、生物工学科や遺伝子工学科の開講科目を一部取り込み、生物資源利用や生命科学の知識や情報を得られるようにしています。また、食の安全の時代性をより深く考慮した講義科目に加え、食の工学研究に必要かつ基本的な実験手法を修得する実験科目、ならびに、世界的に通用する実践力を養うために英語教材を用いた演習科目を設けています。さらに、食品加工現場での衛生管理者として、食品産業界で注目されるＨＡＣＣＰ管理者の資格取得のためのカリキュラムも加え、学生の勉学意欲向上と実践者の育成を図ります。

【食品安全工学科の教育におけるその他の特色】

食品基礎、食生産環境、食品管理評価、食品機能工学および生命機能工学を中心とした各専門分野をカバーする教育プログラムを充実させ、生産現場（食素材）から食卓（食品）に至る「食」の安全性と機能性を高めることを目的に、分子生物学、生化学、安全学などの科学科目と、保全工学、微生物工学および機能工学などの工学科目を基にした教育と研究を実施します。本学科は、近畿大学21世紀ＣＯＥプログラム研究拠点となった大学院生物理工学研究科の生命科学の基盤を踏襲し、世界に通用する「食」のテクノロジストの育成を実施することから、中央教育審議会で提言された高等教育の多様な機能のうち、世界的研究・教育拠点および高度専門職業人養成の機能を重点的に担う学科を目指します。

【遺伝子工学科の学修・教育目標】

遺伝子工学科は、遺伝子工学の技術を人類に役立てるために、分子生物学的手法を用いて遺伝子と生命の多面的・総合的な探求を行い、食物生産、医療、環境などの分野で貢献できる技術者や研究者を育成するために、次の５項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。

１　遺伝子工学の科学的発展に寄与するため、生物学と理工学の融合的あるいは学際的研究を基盤にした教養を身に付け、独創性と創造性を備えた人材を育成する。

２　生命を総合的に理解して、遺伝子工学の最先端研究に挑戦することで、21世紀の課題である食糧・医療・環境問題の解決を志す人材を育成する。

３　遺伝子工学の技術と利用において高い倫理観を有する人材を育成する。

４　遺伝子工学に基づく生命理解の深化から、自然との共存・共生を図った持続的可能な人類社会の発展に貢献する人材を育成する。

５　世界中で開発競争されている遺伝子工学の分野で、実践的語学力を有し、国際的な視野と教養が涵養された人材を育成する。

【遺伝子工学科カリキュラム編成上の特色】

本学科には、分子遺伝学、発生遺伝子工学、分子発生工学、分子情報解析学、応用遺伝子工学の研究部門があり、分子・細胞・組織・個体各レベルで生命現象を総合的に理解するための講義を行います。さらに、遺伝子工学科は、多くの教育研究プログラムを通じて、柔軟な思考を兼ね備えた世界で活躍できる研究者・技術者の育成を行っています。

【遺伝子工学科の教育におけるその他の特色】

本学科では、３年生後期から各研究室に分属し、４年生より卒業研究が始まります。学生たちは、教員や大学院生の親身な指導を受けながら、最先端のテーマに取り組みます。卒業後は、民間企業への就職のみならず、多くの学生が大学院に進学し、研究者・技術者としての道を歩んでいます。なお、主たる進学先である近畿大学大学院生物理工学研究科生物工学専攻は、平成14年度文部科学省「21世紀ＣＯＥプログラム」、平成19年度「大学院教育改革支援プログラム」に採択されています。

【生命情報工学科の学修・教育目標】

生命情報工学科では、通信・システム・情報科学を基盤にして、ミクロな生命情報からマクロな生体システムまで統合的に理解すること、生物の優れた構造や情報処理機能を通信・システム・情報科学分野に応用すること、さらにこの成果を「健康・医療」などの人間生活に直結する分野に応用、還元することを目標とし、人と環境に優しい技術者や研究者を育成するために、次の５項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。

１　生命の「仕組み」と生体としての「営み」を、通信・システム・情報科学を基盤にして統合的に解明し、これを工学分野に応用して、新たな科学技術を創成し得る人材を育成する。

２　通信・システム・情報科学を基盤に、生物から学んだ知見を取り入れて、将来生じるであろう未知の課題に対して積極的に対応し、解決ができる人材を育成する。

３　高度情報化及びポストゲノム時代に対応でき、技術力に裏付けられた高い倫理観を持った通信・

システム・情報科学に関する技術者を育成する。
４　１の成果を利用し、「健康・医療」、「福祉」、「環境」、「安全」をキーワードとする分野に応用、還元することを目標とし、人と環境に優しい技術者や研究者を育成する。
５　国際的に目覚ましく発展する、生命科学及び通信・システム・情報科学の理解に必要な、読解力と論理的思考力を有する人材を育成する。
【生命情報工学科カリキュラム編成上の特色】
通信・システム・情報科学を基礎に数学・統計学、生体工学、感性工学、分子生物学、脳・神経生理学などを横断的に学び、これらを統合したシステム生命科学に到達すべく、教育課程を編成しています。
数学や物理が主体の専門基礎科目の上に通信・システム・情報科学に関する専門科目を積み上げ、さらに２年生から先端専門科目を用意し、個別指導体制の充実を図っています。実技を磨くための実験や実習・演習科目も多く、また、企業や他大学から招かれた講師による先端技術に関する特別な講義も用意されています。
「生命」の全体像を統合して扱う知識と技術を幅広く学修するため、専門科目では「学科基礎科目」を中心に、以下の２つの科目群が設けられています。
○　生命情報科目群
通信・システム・情報科学を基盤に、ＤＮＡ、ＲＮＡ、タンパク質などのミクロな生命情報を単に配列情報として扱うだけでなく、コンピュータシミュレーション技術を駆使して、そのダイナミクスをシステム論的に捉えるための知識と技術を学修します。
○　生体システム科目群
視覚・聴覚などの五感や、脳波・心電・筋電などのマクロな生体情報から生体システムを理解するための知識と技術を、通信・システム・情報科学の観点から学修します。
【生命情報工学科の教育におけるその他の特色】
本学科のカリキュラム編成はＩＴパスポート、基本情報技術者、バイオインフォマティクス技術者などの資格の取得にも結びつきます。また、通信・システム・情報科学を基礎に、生命情報科目群や生体システム科目群を体系的に学び、「生命」の全体像を統合して捉えるためのカリキュラム編成であるため、医療・バイオ情報系企業への就職はもちろんのこと、日本の基幹産業である情報・電子・電気系企業を中心とした技術職への就職も拓けています。大学院への進学の道も用意されており、より先端的な研究に取り組むこともできます。
【人間環境デザイン工学科の学修・教育目標】
人間環境デザイン工学科では、人の身体寸法や形状、生理的な反応や変化、心理的な感情の変化、人の生活空間・生活環境を研究し、その結果を人と環境にやさしいモノづくりに活用するユニバーサルデザイン技術を修得する。人間生活の質（ＱＯＬ）の向上を目的とした生活関連プロダクトのデザイン分野で貢献する技術者や技術コーディネーターを育成するために、次の５項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。
１　人間科学、医療・福祉工学、環境科学、力学に関係した分野横断的な教育研究を通じて、より豊かな人間生活を支援するための工学技術に貢献できる学際領域のマインドを有した人材を育成する。
２　科学的根拠に基づく設計規範に立脚したユニバーサルデザイン技術を追究して、21世紀の福祉・ユニバーサル社会の構築に寄与できる人材を育成する。
３　技術者倫理のみならず医療・福祉に対する高い倫理観を有する人材を育成する。
４　環境負荷の低減を前提とする生活関連プロダクトのユニバーサルデザインを通じて、持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成する。
５　国際的な視野と教養を有するグローバルエンジニアとなり得る人材を育成する。
【人間環境デザイン工学科カリキュラム編成上の特色】
少子高齢化社会を迎えた21世紀において、すべての人々が安心で自立した日常生活及び社会生活を送るため、人間生活の快適性や健康と結びつくプロダクトから医療・福祉に関連する生活支援プロダクトまで、人間生活の質（ＱＯＬ）の向上を目的とした生活関連プロダクトのデザイン能力養成を目的に、以下に示す４系列の科目群を分野横断的に学び、ユニバーサルデザインの心と技術を身につけます。
○　人間科学系

人間医工学、感性や心理学、スポーツ科学といった人間科学の基礎学理を学び、生活関連プロダクトの使い心地を設計規範に取り込む技術を学びます。

○　機械科学系

材料力学、熱力学、流れ学といった生活関連機器設計のための工学の基礎を学び、高機能プロダクトを設計する能力を養います。

○　住環境科学系

生活環境における快適性や人間生活と自然環境との共生を学び、生活環境および地球環境に配慮した生活関連プロダクトの機能と構造をデザインする能力を養います。

○　ユニバーサルデザイン系

人間工学や福祉機器デザインの技術を学び、人間・生活支援に関連したプロダクトをプランニング・開発する能力を養います。

【人間環境デザイン工学科の教育におけるその他の特徴】

ユニバーサルデザイン技術の修得は、認定人間工学専門家、福祉情報技術コーディネーター、住環境コーディネーター、３次元ＣＡＤ利用技術者等の資格取得にも結びつくため、自動車、家電製品、住宅、スポーツ・健康器具、医療・福祉機器といった生活関連プロダクトの開発・設計技術者やプロダクトのユニバーサルデザインを企画する技術コーディネーターとして幅広い進路選択の可能性を有しています。工学系および医療・福祉工学系の大学院への進学も可能です。

【医用工学科の学修・教育目標】

医用工学科では、電気電子工学、制御工学、機械工学の専門知識や技術ならびに医学に関する幅広い知識を習得することで、医療福祉分野における科学技術の発展に貢献する、創造性と研究能力を兼ね備え、豊かな教養と高い倫理観を持つ臨床工学技士や技術者を育成するために、次の５項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。

１　工学の専門知識と医学の基礎知識を備え、医療機器の開発を担うことのできるメディカルエンジニアを育成する。

２　高度な技術と専門知識に裏打ちされ、チーム医療に不可欠なコミュニケーション能力を備えた生命維持管理装置の専門家を育成する。

３　豊かな学識と優れた人間性を備え、生命に対する高い倫理観が涵養された医療従事者を育成する。

４　医療機器の操作や保守管理にとどまらず、その動作原理を熟知し、深い工学的素養を身に付けた医療従事者として、高齢化社会における人間生活の質的向上に貢献できる人材を育成する。

５　科学的な思考力と自発的に問題を解決する能力とともに、国際的視野や感覚を身に付けた、グローバルに進化する医療技術に対応できる人材を育成する。

【医用工学科カリキュラム編成上の特色】

工学と医学の融合領域における広い視野を身につけ、新しい医療技術の開発を可能にする科学的思考力を養う教育を行います。特に、臨床工学技士の資格取得に留まらない高度な専門知識を有する人材を育成するという観点から、専門基礎科目で学修した知識を、演習・実習を通してより深く理解することを目指します。また、４年次に実施する臨床実習は、医学部・病院などの学部外の医療機関において実施し、臨床現場で必要とされる実践的かつ総合的な知識や技術を修得します。一方、生命倫理に関する科目は全ての学生に必修とし、医療従事者に必要な倫理観を涵養します。

【医用工学科の教育におけるその他の特色】

本学科では、卒業に必要な単位に加え、所定の科目を修得すると「臨床工学技士」の国家試験の受験資格を得ることができます。将来の国家試験を見据えて、３年次までに、医用生体工学の基礎知識を有することを認定する第２種ＭＥ技術者（日本生体医工学会認定資格）の資格取得を目指します。さらに４年次には、臨床工学特別演習で医療チームの一員として活躍する際に重要となる、様々な角度から問題を検討・解決できる能力を養成します。卒業後は、最先端医療機器の開発に貢献できる技術者として医療機関や医療機器メーカーなどで活躍します。また、大学院に進学し、修士号または博士号を取得することで、教育、研究機関にも就職することが可能になります。

【工学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

グローバル化が進み変革を余儀なくされている高度情報化社会にあって、技術者には、即戦力となる知性と技術に加え、良心と感性をもった付加価値の高い21世紀型の人材が求められています。

工学部では、本学の建学の精神と教育の目的を旨として、そのような時代の要請に応えるべく、次

の３つの教育目標
１　高い人格と倫理観を持つ人材の養成（人間性）
２　技術者としての専門的能力の涵養（専門性）
３　国際化時代を生き抜く力の養成（国際性）
を掲げて、長期的な視野で社会や技術の変化に対応し、持続可能な社会を実現できる技術者・研究者の育成を目指します。

そのために、工学部では、以下のカリキュラムを編成しています。

（1）　人間・文化・社会・自然・環境・健康等、多方面にわたる科目を配置して、人間尊重と公共性の意識、国際的感覚、論理的思考力と課題設定・問題解決力、自己表現力とコミュニケーション力等をバランスよく育成し、幅広く調和のとれた豊かな教養と人間性を涵養します。

（2）　基礎教育・外国語科目：習熟度別英語クラス編成により基礎学力を徹底して身につけさせるとともに、系統的な科目配置とバランスのよい講義、演習、補習等の実施により、異文化への関心、実践的な語学力及び国際的視野を身につけさせ、国際性を育成します。

（3）　専門教育科目：分野及びレベルごとに階層化した専門基礎科目群と専門科目群、さらに分野間を繋ぐ科目群を系統的に配置し、幅広く応用可能な専門能力を身につけさせます。創成的内容を取り入れた演習・実験・実習と研究室での産学連携の共同研究等から、産業界に貢献できる実践的な専門性を育成します。

（4）　特修プログラム：「情報技術」、「教育学」、「教職課程」、「国際経営」の４つの特修プログラムを編成し、学際的な視野を育成します。

これらのカリキュラムを通して、卒業時には、ア　高い人格と倫理観とともに、専門分野の知識を基礎として、専門領域を超えて課題解決に取り組む姿勢、イ　技術者・研究者としての専門的能力を生かして、持続可能な社会を目指すための課題を発見・分析・解決する能力、ウ　表現力、論理的思考力、コミュニケーション力、さらには幅広い知識を活用して国際的視点に立って行動する能力、といった資質を身につけることができます。

【化学生命工学科の学修・教育目標】

化学生命工学科では､持続可能な社会の構築と健全で快適な生活の維持と促進に貢献できる技術者･研究者として必要な高い倫理観（人間性）、生命工学、環境化学、食品科学等の専門能力（専門性）を育成します。さらに、情報化社会に適応でき、専門分野での課題発見、解決、及び発信に資する情報基礎技術を育成します。これらを活用して国際的問題を洞察する力（国際性）を育成します。豊かな人間性と国際性を備え､判断力や指導力を発揮し社会に貢献できる人材を育成します｡そのために、
１　地球と人を思いやる豊かな感性と高い倫理観を養成します。
２　国際的に通じる、筋道を立てて表現できる能力を養成します。
３　問題を提起しそれを解決するために行動できる能力を養成します。
４　化学や生物学の基礎知識を持ち専門知識を活用できる能力を養成します。
５　工学領域のみならず医学、農学分野に跨った問題に情報科学技術を活用して対処するために必要な化学及び生物学に対する理解能力を育成します。

化学と生命科学分野を融合した「ものづくり」の観点から、豊かで健全かつ快適な持続成長可能な社会構築を実現するために､（1）　機能性素材､副作用の少ない医薬品､機能性食品の開発､（2）　健康維持のための食の安全・安定供給の確保､（3）　限りある資源の有効な活用と再生可能な資源の利用､（4）　環境保全のための環境分析に関連した教育・研究に取り組みます。

【化学生命工学科カリキュラム編成上の特色】

化学生命工学科のカリキュラムは、化学、生物学、環境化学、食品科学の知識や技術を総合的に身につけ、持続成長可能な社会を実現するための技術を修得できるように編成されています。１・２学年には総合科目、工学基礎及び化学と生命科学の基礎全般を学修するための専門基礎科目を、３学年には生物工学、環境化学、食品科学の専門知識や技術を養成するための専門科目を設けています。また、現在の社会で必要とされる技術者・研究者としての高い倫理観と国際性（教養・コミュニケーション能力）を４年間を通じて継続的に身につける科目を設けています。さらに、全学年に情報技術を活用する科目を配置し、開講専門科目では、専門科目の特徴的な情報技術を縦断的に学修します。

化学生命工学科では、相互に深い関連を持つ以下の３つのコースを設置し、学修分野を明確にしています。

化学・生命工学コース（ＪＡＢＥＥ認定コース　2006年度より継続）
　化学、生物学及びその複合領域の専門科目を縦断的に学び、その知識を複合的に応用し問題を解決する能力を身につけます。
環境・情報化学コース
　環境化学、化学、生物学等の専門分野を学び、これら分野の専門知識と情報技術を活用した問題解決能力を身につけます。
医・食・住化学コース
　食品科学、化学、生物学等の専門分野を学び、これらの分野の専門知識を活用し健康かつ文化的な生活維持に係る問題解決能力を身につけます。
【機械工学科の学修・教育目標】
　機械工学科では、機械工学の基礎知識を足場にした「ものづくり」のできる能力、国際化時代を生き抜く行動力と倫理観を持つ機械技術者を育成することを目指しています。そのため、まず、人文社会や自然科学からなる基礎教育プログラムを学修することにより、社会に貢献できる幅広い視野と倫理観を身につけることを目標にしています。また、外国語科目や専門科目を学修することにより、国際化時代を生き抜く能力を養成します。そして、機械技術者として国際的に活躍するために必要な機械工学の基礎知識と設計や生産に関する専門教育プログラムを学修することにより、機械工学の基礎に立脚した「ものづくり」のできる能力を修得していきます。特に、設計製図に重点を置き、「ものづくり」の基礎となる実学を通して、設計に関する論理的な考え方や「ものづくり」において重要な材料とその加工技術に関する深い知識と力学的思考に基づく応用力を身につけることを目指しています。これらを通して、問題を発見して、それらを解決する能力と、設計能力を備えた国際性豊かな機械技術者の育成を目標としています。
【機械工学科のカリキュラム編成上の特色】
　機械と人間の共存することに立脚した機械の設計に対する考え方が重要になってきます。さらに、環境にやさしいエネルギーによって機械を稼動させることなど、これからの機械技術者にはインフラの整備も含めた多くの課題が提示されます。このような現状を考慮し、機械工学の基礎学問と設計に関する専門知識を広く学び、かつ、設計製図に重点をおいて能力を養成していきます。また、「ものづくり」の基本となる実験や実習を通して設計に関する思想や技術が身につけられるように、カリキュラムは構成されています。さらに、機械とエネルギーの関連性を考慮した深い知識と考察力や応用力を身につけることができ、幅広く国際的な工学知識と倫理観をもつ専門職業人へと育成できるように、カリキュラムは構成されています。
１　実学重視：設計製図、工学実験、工作実習などにより、座学による学修を実体験することで教育効果の向上を図ります。また、座学による講義においても演習を導入することにより、より深い理解と、問題の解決及び解決能力の向上を図ります。
２　創成科目の導入：既成の実験テキストには頼らず、自由な発想に基づき、課題に対して実験の企画、実験道具の調達と実験の遂行、データ処理、レポート作成までを、各人が資料調査をしながら達成していく実験等の創成型科目により、自由な科学的発想と目的実現手段を培い、問題発見・解決能力や表現力を養成します。
３　設計製図の一貫教育：単純な機械をテーマとしながらも、製図、機械要素及び機械設計の一貫した「ものづくり」教育を行います。
【ロボティクス学科の学修・教育目標】
　ロボティクス学科では、「Ｉ　ｃａｎ　ｄｏ　ｉｔ．」をキーワードに、機械工学、情報工学、電気電子工学、制御工学など、幅広い工学知識と技術を系統的に学修できる教育プランの下で、ロボットを作り出すために必要な基礎知識と技術を修得します。これにより、様々な機能を持つロボットの開発において直面する問題を自ら解決する能力を育成するとともに、新しい機能や高度な知能化技術などを備えた新時代のロボットを開発することができる創造性豊かなメカトロニクス技術者を育成することを目指します。
　この教育理念のもと、以下の５つの項目を具体的な学修・教育目標としています。
１　技術者としての社会倫理観の養成
２　工学の基礎知識の修得
３　工学の基礎知識と技術を駆使して創造性豊かなデザイン能力の養成

４　課題発見・解決能力の養成
５　論理的思考に基づくプレゼンテーション能力、及び外国語による基礎的なコミュニケーション能力の養成
【ロボティクス学科のカリキュラム編成上の特色】
ロボティクス学科では、学生が自らロボットを作る力を身につけることを目指し、学生の自主性、創造性、問題発見・解決能力を養うとともに、機械工学、情報工学、電気電子工学、制御工学などロボット開発に必要な専門知識を定着させるために、実験・実習中心の体系化されたカリキュラムの下で、学年進行に伴う知識の積上げと専門科目間の関連性を考慮した教育を行っています。１学年にはロボットの基本構造を学びながら座学と並行して行われる豊富な実験・演習科目を通して、ロボットを製作し動作させるための基礎知識と技術を修得します。２学年にはメカトロニクスに関する要素技術を学び、さらに３学年にはその応用技術に関する専門知識を修得します。４学年には、それまでに学んだ基礎知識を用いてロボット関連の研究と開発を行うことによって問題発見・解決能力、プレゼンテーション能力を養います。また本学科では、幅広い専門知識を身につけられるように、２学年より「ロボット設計コース」と「ロボット制御コース」を設けています。各コースは以下のような特色があります。
「ロボット設計コース」では、設計工学、加工学、機構学、アクチュエータ工学など、ロボットを作り出すために必要な知識と技術を重点的に修得させ、独創的なロボットを設計・開発できる人材を養成することを目指します。
「ロボット制御コース」では、情報工学、制御工学、電気電子工学、計測工学など、ロボットシステムを統合するために必要な知識と技術を重点的に修得させ、ロボットの知能化を実現できる人材を養成することを目指します。
【電子情報工学科の学修・教育目標】
電子情報工学科では、ソフトウェアからハードウェアまで、コンピュータ関連の技術を幅広く修得させることを教育の目的とし、プログラミング技術と電子回路設計能力、ネットワーク設計技術を有する技術者を育成することを学修・教育到達目標としています。
最先端のコンピュータ技術に関するハードウェアを研究するのが電気・電子工学で、ソフトウェアを研究するのが情報・通信工学です。この二つの分野をバランスよく学び、両方の分野に強い技術者になっていただくために、上のような学修・教育到達目標を本学科では掲げました。情報通信技術が高度に進化し、生活の隅々にまでコンピュータやスマートフォンが浸透した現在、社会を支える電子情報技術者はこれまで以上に重要な役割を担っていくことになります。現代の電子情報技術者には、複雑化した社会で発生する様々な問題に対して、国際的視野まで含めた柔軟な問題解決能力を身につけることが期待されています。
したがって、このような技術者には電子情報工学に関する知識や技術はもちろんのこと、幅広い教養や倫理観を持ち社会に対する責任を自覚したり、様々な問題を考察し、その結果を明解に表現し、また、自ら問題を発見してそれを解決したりする力が必要です。本学科では、このような豊かな人間性や問題解決能力・コミュニケーション能力なども、仲間と協力し合いながら楽しく意欲的に身につけることが可能な教育プログラムを有しています。
電子情報工学科では、「電気電子コース」と「情報通信コース」の二つのコースでカリキュラムを編成しています。各コースの特色は次の通りです。
「電気電子コース」では、電気・電子工学やその関連技術の急速な発達に柔軟に適応し、国際的に活躍できるエレクトロニクス産業における技術者を育てます。そのため、コンピュータ・ハードウェアに関する専門的知識はもちろん、電子機器の基礎から応用まで幅広い分野にわたるカリキュラムを構成しています。具体的には、エネルギー変換工学や集積回路、半導体工学や光エレクトロニクスなどの電気・電子工学分野の専門知識に加えて、ＩＴ時代に必要な情報技術の関連知識までを幅広く身につけます。
「情報通信コース」では、コンピュータの基礎知識からコンピュータ制御を行うソフトウェアのプログラミング、さらにはセキュリティの高い高速大容量通信を可能とするネットワークやデータベースまでＩＴ技術について幅広く学びます。ＩＴの基礎や応用のみならず、技術開発に必要なハードウェア、画像処理技術・人工知能などに関連した高度な情報技術まで修得します。実験や実習による経験を重ねて、応用力をもった即戦力のエンジニアを育てます。

【電子情報工学科のカリキュラム編成上の特色】
電子情報工学科のカリキュラムには次の３つの特色があります。
１　実践力をつけるための実験・実習科目の重視
　プログラミング演習や電気・電子回路に関する実験など、多くの実験・実習科目を１学年から受講でき、実践力が早くから身につけられます。また、実習と講義との結びつきを強くしているのも本カリキュラムの特徴であり、知識が生きたものとして身につきます。
２　電気・電子工学と情報・通信工学の科目のバランスよい配置
　電気・電子工学分野ではコンピュータ・ハードウェアの中心となる様々な電子機器の仕組みや、それを作り、動かすための技術、その物理的な原理等を学ぶ科目をバランスよく配置しています。一方、情報・通信工学分野ではソフトウェア技術の中心となる種々のプログラミング手法やネットワークシステムを設計し運用する方法等を学ぶ科目をバランスよく配置しています。さらに、これら二つの工学分野間のバランスを考慮して科目を配置しているため、常に広い視野を保ちながら、両方の分野の能力を向上させることができます。
３　専門性を磨き、個性を伸ばす柔軟なコース制システム
　２学年から「電気電子コース」と「情報通信コース」に分かれます。これにより、電気・電子工学と情報・通信工学の二つの分野をバランスよく勉強しつつ、独自の専門性を磨いていくことができます。
　「電気電子コース」の科目では主に、電子デバイス・計測工学・電磁波工学・電気エネルギー制御などを修得するためのハードウェアの物理を身につけることができ、これをさらに磨いていくことができます。
　「情報通信コース」の科目では主に、データ処理・通信ネットワーク・非線形科学・人工知能・画像処理などを修得するためのソフトウェアのプログラミングを身につけることができ、これをさらに磨いていくことができます。
【情報学科の学修・教育目標】
　製造業・流通業・サービス産業等の産業界の様々な分野における経営戦略の実現を支援する情報システムを企画・設計できる能力を有する技術者を育成します。現代社会では、情報システムを戦略的に活用し経営戦略をスピーディに実行する事が、企業が他社との競争において優位に立つ必須条件です。
　ＡＩ等を含む先端的な情報メディア技術を活用して安全・快適な社会の創造を支援するマルチメディアシステムを提案・開発できる能力を有する技術者を育成します。様々な分野で情報メディアを有効に活用し、情報共有・情報伝達のスピードアップが求められています。
　したがって、上記技術者の育成を目標に、情報システム構築の基礎となるコンピュータ技術やモデル化技術、情報システムの企画・設計・開発技術や情報メディア技術について学修します。
【情報学科のカリキュラム編成上の特色】
　アルゴリズムなど情報システムの基礎から、ネットワークを活用する方法、マルチメディア社会にふさわしい情報の表現手段、さまざまな領域にまたがる応用システムの構築法に至るまで、広く情報システムに関する基礎理論・知識・技術を修得し、問題解決能力を身につけることで、情報システムデザイナ･システムエンジニアとして活躍できる能力を育成するためのカリキュラムを組んでいます。
　産業界の第一線で活躍しているシステムインテグレータや情報技術者による特別講演形式の講義を行なうことによって、現場で役立つ技術とは何か、10年後、20年後のあるべき自分を実感できるようなカリキュラムを取り入れています。
　教育支援システム（ＫＳＳ）という学科独自で設けたコンピュータルームを特別に用意し、学生が自分から学修・研究を深めていける設備を使用したカリキュラムを多数組み入れています。また、企業情報システム演習室１及び２では、企業情報システムの構築を実践できる環境を整えています。さらに、システム創成演習室及びマルチメディア実習室では、使いやすい情報インタフェースを作るための３次元ＣＧや賢いインタフェースに必要な画像ＡＩを、クラウド上で体験的に開発して学修できるようにしています。
　カリキュラムの体系として、工学基礎、総合、情報処理、情報システム、情報メディアと大きく区分けしており、各区分の中に個々の専門科目を配置して、系統的に学修できるよう編成しています。平成24年度より、ＪＡＢＥＥ認定プログラム（ＩＳ（情報システム）分野）となりました。

【建築学科の学修・教育目標】
建築学科では、建学の精神と教育の目的に即して、持続可能な社会を実現する未来志向の建築を設計・生産できる次のような建築家や建築技術者を育成することを目標としています。「１　豊かな人間性と総合的なデザイン力を持ち、地域社会や地域環境に貢献できる建築専門家　２　国内外における建築技術の伝統を引継ぎ、発展させる、実践的な建築専門家　３　人間と環境の時代に向けて、確かなデザイン力とチャレンジ精神のある建築専門家」
本学科の学生が卒業までに身につけるべき具体的な知識・能力として、次の学修・教育到達目標を定め、これを達成するための授業科目を履修し、具体的に明示された評価方法に基づき厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。
１　豊かな人間性と総合力のある技術者として（A）～（D）の能力を身につける。
（A）　環境問題を理解し意匠設計ができる（意匠設計力）。
（B）　建築計画を理解し図面作成ができる（図面作成力）。
（C）　構造設計を理解し構造計画ができる（構造計画力）。
（D）　構造力学を理解し構造解析ができる（構造解析力）。
２　実践力のある技術者として（E）～（G）の能力を身につける。
（E）　建築倫理がわかる（建築倫理理解力）。
（F）　生産管理がわかる（生産管理理解力）。
（G）　環境設備がわかる（環境設備理解力）。
３　チャレンジ精神のある技術者として（H）、（Ｉ）の能力を身につける。
（H）　チームで課題解決ができる（課題解決力）。
（Ｉ）　新しいことに挑戦できる（チャレンジ力）。
【建築学科のカリキュラム編成上の特色】
本学科では、以上のような技術者を育成するために、次のような教育方針でカリキュラムを編成し実施しています。この学修の成果として、建築専門家（一級建築士）として必要となる設計・計画、環境・設備、構造、生産の総合的な基礎知識を確実に身につけることができます。
１　豊かな人間性と総合力のある技術者を育成するために、設計教育と力学教育を両輪とする建築教育を実施する。
２　実践力のある技術者を育成するために、実学志向教育を体系的に実践する。
３　チャレンジ精神のある技術者を育成するために、体験的・挑戦的教育を実現する。
さらに、下記のようなカリキュラムの特徴によって、基礎力を確実に身につけることができます。
１　初年次の構造力学科目については少人数クラスによる徹底教育を行い、基礎的な学力を確保しています。
２　講義後直ちに演習を行う［講義＋演習］科目を多用し、知識だけでなく実際に計算ができる能力を育成しています。
３　実物の住宅を計測し図面化する授業や、与条件のもとに設計し作成した構造模型の強度を競う創成型授業、建築実験（構造・材料・環境）など、体験的学修を重視する科目を多数配置しています。
４　総合的なデザイン能力とチャレンジ精神、実学志向にもとづく実践力を育むため、複数の建築家が直接指導する設計演習科目や国際交流を目的とした集中演習科目を配置しています。
また、基礎教育科目（総合科目＋外国語科目）については工学部のポリシーに準じたカリキュラムによって、基礎力を確実に身につけることができます。
【その他の特色】
工学部では、各学科の教育目標に沿ったカリキュラムによる学修とは別に、多様な将来構想に役立つよう、どの学科に在籍しているかとは無関係に履修することができる、特修プログラムと呼ばれるもう一つの専門科目群を設けています。
特修プログラムには、情報化時代に必須の技術を実践的に学び取ることを目的とした「情報技術特修プログラム」、教育のあり方や指導の仕方を学ぶ「教育学特修プログラム」と「教職課程特修プログラム」、英語力の向上と豊かな国際感覚を養い、ものづくりの提供側と顧客側の価値共創の視点を育成するための「国際経営特修プログラム」の４つがあります。これらを学修することによって、技術者としての素養をさらに幅広く身につけることができます。
【産業理工学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

近畿大学学園の建学の精神に基づいた産業理工学部は、従来の大学における文科と理科に区別された教育に対する反省から
人間主義の工学　“（Ｈｕｍａｎｉｔｙ－Ｏｒｉｅｎｔｅｄ　Ｓｃｉｅｎｃｅ　ａｎｄ　Ｅｎｇｉｎｅｅｒｉｎｇ）”
の実践を目指し、自然・技術・人文・社会が調和する文理協働の発想をもった教養ある社会人を育成することを教育理念としています。このため、本学建学の精神である実学教育のもと、技術に偏重せず21世紀が求める文理シナジー的発想とコミュニケーション力を持ったフロンティア人材を育成することを目的にしています。

実社会で活躍できる人材となるためには、専門知識ばかりではなく、社会人としての基礎能力もしっかりと身につけておくことも大切です。そのために産業理工学部では教養・基礎教育部門の共通教養科目として人間性・社会性科目群、地域性・国際性科目群、課題設定・問題解決科目群、スポーツ・表現活動科目群という四つの科目群と外国語科目を開講しています。四つの科目群では幅広い教養科目の他にインターンシップといった体験型の授業があります。外国語科目については英語、中国語、フランス語、韓国語などのスキルアップのために習熟度別にクラス分けを行い、実践的な教育を行っています。

産業理工学部は、21世紀にふさわしい新たな学びの場として人間力を高めるためのきめ細かな教育を提供し、本当に楽しく、充実した学生生活になるような体制を整えています。

【生物環境化学科の学修・教育目標】

人類と地球環境をより良い未来へ導いていくためには、自然現象を分子レベルで理解し、問題解決していく能力が強く求められます。生物環境化学科では社会の幅広い分野で活躍できるプロの技術者を育てるため、「生物」、「環境」、「化学」をバランスよく学べるカリキュラムを用意し、講義科目だけでなく実験科目と演習科目を充実させています。生物環境化学科には次の３コースがあります。

バイオサイエンスコース：バイオテクノロジーを専門に学びます。遺伝情報の流れや、それをもとにした遺伝子医薬などの応用まで幅広く学びます。微生物を用いた実験やタンパク質を用いたバイオセンサーの実験など、種々のバイオテクノロジー全般の技能を修得します。

食品生物資源コース：食の安全と品質を守り、食料その他生物資源の有効利用に携わるエキスパートを育てる教育に力を入れます。バイオテクノロジーを基盤に、新しい食品機能の発見と健康への利用、微生物の産業利用、食品と栄養の科学について学びます。また、排水浄化と有害物質の分解、バイオマスの資源化など生物を利用した自然環境の保全修復技術も身につけます。

次世代エネルギー・環境材料コース：環境にやさしい化学の観点から、地球温暖化対策、蓄電池や燃料電池、金属空気電池などの次世代エネルギー材料の研究開発、人と環境に優しい材料の開発、リサイクル技術、環境計測、環境教育を身につけます。また、導電性や磁性を持った先端材料の開発、選択的高性能化学センサーの開発、微量で特殊な化合物の検出ツールなど、21世紀を支える先端技術も身につけます。

【生物環境化学科のカリキュラム編成上の特色】

１　21世紀の最重要課題「バイオ」、「環境」、「材料」の分野で、実社会の問題を解決し新たな技術やアイデアを生み出すことのできる人材の育成を目指したバランスのとれたカリキュラムを用意しています。

２　１、２年次ではおもに生物学・有機化学・無機化学を中心とするコア科目を配し、３年次以降の展開科目で幅広い専門知識を学びます。４年次では卒業研究を中心とした本格的な研究者・技術者養成のための教育を行います。

３　１年次よりすべての学期で実験科目が開講され、充実した研究設備のもと実践的な教育を行います。

【その他の特色】

１　産学官連携による企業や公的機関との共同研究を積極的に推進しており、研究業務の実際や大学での勉強がどう生かされているのかを実感しながら勉強できます。
２　国家資格である「食品衛生管理者及び食品衛生監視員」の養成施設として当学科は認定されているほか、専門性を生かした公害防止管理者などの資格取得をサポートしています。
３　地域社会との交流による環境ボランティアや理科教育支援を積極的に行います。
４　近畿大学はもちろん、国公立大学の大学院への進学率も高く、そのためのきめ細かな指導も行い

ます。
【電気電子工学科の学修・教育目標】
電気電子・情報通信技術は、身近な携帯電話からインターネット・自動車・航空機・ロボットなどありとあらゆるところで利用され、広く産業社会活動の基盤技術となっています。電気電子工学科では、いつまでも最前線で輝ける技術者として活躍できるよう、電気工学の基礎に始まり、応用エレクトロニクス、情報通信、クリーンエネルギーにまで広がる個別技術をハードとソフトの両面から理解し、自然や地球環境と調和した基盤技術が開拓できる技術者を育てます。電気電子工学科には次の３コースがあります。
エネルギー・環境コース：環境保全に配慮した電気エネルギーの生成や安定供給、電気設備の設置や保全、電気電子デバイスの回路設計など、つねに社会で求めつづけられる専門知識と実践力を身につけ、社会や環境を創る・支える・守ることができる技術者を育成します。
情報通信コース：携帯電話やリモコンに組み込まれたコンピュータのソフト・ハード技術、ロボット制御技術など、情報通信社会を支える多種多様な技術を学びます。おもにコンピュータを利用した装置と装置間の通信技術を中心に、情報通信に関する理論と技術を身につけたＩＣＴ基盤を支える技術者を育成します。
半導体エレクトロニクスコース：専門基礎技術を理解し、独力で知識を吸収しながら時代をリードできる、より高いレベルの「自立した技術者」を目指して、アナログ技術とディジタル技術、ハードウェア技術とソフトウェア技術、これらを組み合わせたエレクトロニクス技術に精通し、とくに情報通信社会を支える半導体デバイスの設計・製造・試験に関わる技術を学ぶことで半導体に関わる技術を修得します。さらに専門知識を活用して英語でもコミュニケーションできる能力と多角的視野に基づいた教養も身につけ、世界に通用する技術者を育成します。
【電気電子工学科のカリキュラム編成上の特色】
１　数学や物理の学修において高校からスムーズなつながりができるよう、補習的な講義などを通したリメディアル教育を行っています。また、専門分野へのつながりに配慮した専門基礎科目を設けています。
２　１、２年次では、電気電子分野の専門基礎科目を配置し、３年次以降に各コースに所属して、コースに応じた専門知識を教育します。
３　「電子情報設計プロジェクト」では、15週にわたり一つのテーマに関して、グループ討論による問題抽出、解決法の探索・実現を通してエンジニアリングデザイン能力を養います。
４　「電子情報工学セミナー」では、パネル発表と自己分析により、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養います。
【その他の特色】
１　「知能ロボットプロジェクト」や「電気電子工学科ものづくり工房」により実践的なモノづくり教育を進めています。
２　各学年複数教員の担任制で、一人一人の顔が見える学生指導体制をとっています。
３　電気電子・情報通信分野からの多くの求人があり、毎年、一部上場企業をはじめとして就職率が高く、質の高さが社会や産業界から認められています。
【建築・デザイン学科の学修・教育目標】
建築の工学とデザインの感性を磨き、高い使命感と倫理観を身につけた建築技術者と美しい建築空間あるいはデザインコミュニケーション情報を創造するデザイナーの育成をめざします。建築や都市など規模の大きなものから、住宅や店舗の設計、ポスターデザインやウェブデザインなどの身近なものまで、幅広い「モノづくり」の技術・技能の習得を目標としてカリキュラムを編成しています。また、設計意図や完成作品の特徴を多くの人に伝え、深く印象付ける能力の習得も大切だと考えて開講科目を定めています。
建築・デザイン学科は次の２コースを設けています。
建築工学コース：国際的に通用する建築技術者に育つようより高いレベルの専門知識を授けます。建築に関する包括的な専門知識に加えて、さらに建築物や地域の安全性（建築構造）、快適性（建築環境・設備）、材料・構法（建築生産）に関する建築工学の高度な専門技術を習得するカリキュラムとしています。本コースを修了することで一級建築士受験資格と共に、二級施工管理技士受験資格を取得できます。

建築・デザインコース：自分の将来設計に合わせ、建築およびデザインの両方のプログラムを発展的に学修することができるコースです。幅広い素養と建築に関する包括的な専門知識・能力を身につけて、建設関連業界で活躍できる技術者や、企画から制作までの全過程を行える技能を持ち、デザイン関連業界で活躍できる人材の育成を目標としながら、その両方の資質を有したこれからの社会で必要とされる新たな建築士・デザイナーの育成を目指します。

建築設計・施工に欠かせない建築計画、建築環境・設備、建築構造、建築生産の４分野にわたる内容と、ユニバーサルデザインを軸に情報・プロダクト・環境デザインの３分野を総合的に学修できる多彩な科目が用意されています。そのため、各学生の将来目的に応じて履修科目を選定することができます。本コースを修了することで二級建築士の受験資格を取得できます。さらに修得科目によっては一級建築士の受験が可能となります。

【建築・デザイン学科のカリキュラム編成上の特色】

１　建築とデザインのいずれをも学ぶことができるように、設定された多様な科目から、自分の将来設計にあった科目の選択が可能となっております。

２　幅広い視野を持ち人間力のある実践的な建築技術者と総合的なデザイン力のあるデザイナーを育成するため､建築教育とデザイン教育を高度に織り込んだ斬新なカリキュラムを編成しています。

３　一級建築士、二級建築士、技術士などの建築業務に関わる資格の取得をめざすカリキュラムとしています。また、インテリアコーディネーター、ＣＧ検定などのプロフェッショナル資格をめざした指導にも力を注いでいます。建築やデザインの分野で就職し活躍していくためには、専門資格の取得は必須です。

【その他の特色】

１　設計事務所やデザイン事務所等の会社組織や実務者と連携した実践的な教育を行います。

２　演習を中心とした専門教育の多くは、少人数クラスの授業で個別指導を徹底しています。

３　学生にとって魅力があり、なおかつ社会的にも話題となっている課題を取り上げ、作品などその成果は、学外発表・展示などにより外部の評価を受け、授業改善に結びつけています。

【情報学科の学修・教育目標】

情報が社会のあらゆるレベルに浸透し、私たちの身近な生活と切っても切れない存在であることが認められる中、情報自身は、常にその可能性を広げ、存在様式を進化・発展させ続けています。巨大化し、多様化していく情報と与し、手なずけ、役立てて行くためには、情報を扱うためのソフトウェアやネットワークの技術と知識を学ぶとともに、日々進化・発展していく情報の様々な形式に触れ、そのサイエンスとしての扱い方に慣れ親しみ、新たな情報メディアの可能性を常々考えるような習慣を身につけることが必要となります。このような技術と知識と体験を身につけた人を育成するため、情報学科では次の３つのコースを設けています。

情報エンジニアリングコース：情報システムの構築とその分析・設計・開発に関わる知識と技術を身につけ、インターネット社会の情報基盤を開発する最前線において活躍できる人材を育成します。このため､情報技術に関する基礎知識（ハードウェア､ネットワーク､データベース､アルゴリズム）、情報システムに関わる分析・設計・運用技術、プログラミング、セキュリティ、先端技術（クラウド、組み込みなど）の教育を提供します。

メディア情報コース：情報メディアに関する知識と、コンテンツを制作するための手続き的知識と技能を身につけ、創造産業を含む文化産業に従事できる人材を育成します。このため、社会生活における情報メディアの役割・知的財産権・インターネットサービスやビジネス等に関する基礎知識、コンピュータ音楽・コンピュータグラフィックス・ディジタル映像といったコンテンツ制作技能、Ｗｅｂデザインの手法・Ｗｅｂプログラミング・Ｗｅｂ解析技術といったＷｅｂサイトの企画・制作・運用に関する技能を修得するための教育を提供します。

データサイエンスコース：膨大なデータから有益な情報を抽出し、分析・予測に役立てるための手続き的知識と技能を身につけ、企業のマーケティングやデータ分析に携わる部門において活躍できる人材を育成します。このため、データ分析のための基礎知識（統計解析、データの可視化、データベース）、知識発見のための手法（データマイニング、機械学習、最適化）、そして、発展技術（シミュレーション、モデル同定）に関する教育を提供します。

【情報学科カリキュラム編成上の特色】

１　カリキュラムは、各コース共通の知識となる科目群と、それぞれのコース毎に特徴的な科目群か

ら構成されています。
2　演習科目を多数用意して徹底した実践力の修得を行います。
3　「情報学プロジェクトⅠ・Ⅱ」として、実際に社会の中で役立つシステムを構築することを目的として、ゼミ単位少人数のチームで企画、計画から設計、コスト試算、構築、実証評価までを行い、その結果をプレゼンテーションとして発表するという講義を行います。座学や演習だけでは身につけることができない社会に役立つ実践力を育てます。力を育てます。

【その他の特色】
1　就職率が高いだけでなく、特に上場企業への就職者が多いのが特長です。
2　各コースの特性に沿った資格取得を積極的に指導します。男女の差なく、それぞれの分野のプロフェッショナルとして幅広く活躍できますので、女子学生のキャリアづくりにも最適です。

【経営ビジネス学科の学修・教育目標】
経営ビジネス学科では、実践的な経営センスを持ち、地域や社会に貢献する人材を育成します。知識中心の組織社会化がますます進行する中で知的資源や人的資源をいかに活用していくかが重要となってきています。また近年、社会全体の価値観や利害の多様化が進み、複雑化し、それらの間の調和をいかに図っていくかが重要になってきています。このような変化のために、マネジメントに対するニーズと期待が高まってきています。また、学生の関心と活躍の場のグローバル化も起こってきています。

マネジメントについて最も必要なことは、社会における組織の使命や役割を明らかにすることです。その使命を果たし、役割を遂行するためには、二つの条件が不可欠です。一つは、組織の置かれている現状をつねにチェックし、改善を加えていくことで、革新性・創造性をもつということです。もう一つは、組織に対する社会の期待がどこにあり、社会が必要とするものは何か考えることで、それは社会性をもつということです。マネジメントのあり方は、この２つの条件、革新性・創造性と社会性によって左右されます。

このような基本的認識に立って、経営ビジネス学科では組織経営に関する理論的、実践的教育を進めています。なお、組織は、企業だけでなく、非営利組織・自治体・地域コミュニティも含みます。これらの幅広い組織の経営（マネジメント）方法について、段階的に学んでいきます。

また、社会性を養うために、マネジメントの理論や技術だけでなく、そのよって立つ文化的背景をも学んでいきます。

【経営ビジネス学科のカリキュラム編成上の特色】
1　経営マネジメント・グローバル経営の２コースを設け、学生が興味や関心に応じて履修できるような編成です。経営マネジメントコースでは、経営や会計について幅広く学び、理論と実践の融合を目指していきます。企業・非営利組織・自治体などの組織に着目して、それらの運営に関する科目を幅広く学びます。グローバル経営コースでは、国際的な視野に立ち、グローバル社会における組織経営に関わる能力を養成します。国際化に対応するために、外国の文化の理解や語学の習得もめざします。
2　専門基礎科目を重視し、主要分野に関する必修科目を配置しています。それをベースに、段階的、系統的履修を促します。
3　ゼミナールを中心にした少人数教育を徹底し、「全人教育」を目指し、各学年で少人数によるゼミナール教育を行います。
4　「会計処理演習」「フィールドワーク」「データ分析」を開講し、具体的事例や実践的テーマに対して、学生が直接参加する講義を行います。アクティブラーニングは各科目でも取り入れて、学修内容のより深い理解をめざします。

【その他の特色】
1　簿記関連、販売士、ファイナンシャルプランナー、税理士、語学関連などの資格取得に関して、課外授業を行います。